



国立大学法人

豊橋技術科学大学

同窓会報



第36号 2019 豊橋技術科学大学同窓会

2019
No. **36**



同窓会会長挨拶

大学組織「卒業生連携室」との両輪で人脈の輪を!

旧第3系(電気・電子工学)1期生 古野 志健男

<2018年度 (株)SOKEN 専務取締役>

豊橋技術科学大学同窓会の皆様方におかれましては、常日頃より同窓会活動に対しましてご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。改めて心より深く御礼申し上げます。

さて、昨今の世界情勢に目を転じますと、政治面では、米中の貿易戦争や英国のEU離脱に代表されますように世界の自由経済に陰りと先行き不安を感じますし、環境面では、世界の大気平均CO₂が2018年5月にハワイのマウナロア観測所で410ppmの大台を越え、異常気候による悲惨な災害が多発し、社会面では世界中でMaaSによるモビリティ改革が急速に進展し、一方、中国政府は「中国製造2050」というモノ造り世界一を目指した巨大国プロを推進しているのはご存知の通りです。

そんな中、日本の将来は決して安泰できる状況にないの言うまでもございません。日本の唯一の資源は人材、特に若い技術科学人材ですので、同窓会と致しましても、各組織体、地域社会、日本、世界中の豊橋技科大同窓生の年次や系の枠を超えた輪と絆を広げ、それをコアとしてまずは日本社会に貢献できるような活動をしていくべきだと思います。そのために豊橋技科大を活動拠点として同窓会と大学との連携による活動強化を考えて居ります。大学組織として2018年度新たに大西学長の下に「卒業生連携室」が設置されました。その目的が、卒業生との相互支援関係の構築と同窓会との連携を推進するためです。同窓会と致しましてもクルマの両輪のごとくしっかり連携していきます。その項目としましては、同窓生名簿の管理・運用、卒業生共同支援事業などです。同窓生名簿管理につきましては、ご存知のように2年前にセキュリティー万全なWeb名簿システムを構築し、会員の皆様方に情報更新のお願いをさせて頂きましたが、まだまだ充分にはご協力戴けていない状況です。お手数ですが、同窓会のホームページにアクセス戴き最新情報を入力して戴けますと大変有難く存じます。

2018年度同窓会では、昨年度から進めています組織ネットワーク、OGネットワーク、海外ネットワークを構築し、10名以上が参加される同窓生の懇親会やイベント等に同窓会から支援をさせて頂いています。今年度はすでに11件を採択し、262名のOB/OGの方々に支援させて頂きました。皆様もこの支援制度をご利用戴き、多くの同窓生との人脈形成にお役立て下さい。また、在学生への支援事業や、例年企画の「会報の発行」、「優秀学生の表彰」、「クラブ活動支援」、「卒業パーティー共催」なども進めています。

是非、皆様方も最近の豊橋技術科学大学を一度訪問されるとか、皆様方の組織内での技科大OB/OGの集まりを企画し交友を深めて戴けますと大変有難く存じます。重ねて、同窓会活動への皆様方のご協力・ご理解を深くお願いして、挨拶に代えさせて頂きます。

豊彩会(OG会)の発足と活動報告

豊彩会幹事 中野 裕美
(副学長(男女共同参画担当))

2017年に本学同窓会が35周年を迎え、これまで同窓会の活動を支えていただきました同窓生の皆様のお蔭だと、心から感謝申し上げます。

この節目の機会に、同窓会活動に広がりを持たせたいと思い、卒業生OG会を立ち上げ、「豊彩会」と命名し、初代幹事として活動を開始しました。

まず、2017年3月13日に、「キックオフイベント」を、本学図書館で開催しました。講師には、木野島光美様(㈱グランメモリー代表取締役、元NHK衛星放送キャスター)と、卒業生の山下礼子様(㈱マイクロ・シー・エー・デー、製造ソリューション事業部室長)をお迎えし、企業でのコミュニケーション力をはじめ、女性の家事・育児、キャリア形成の工夫などについて、経験談を交えたお話に、多くの質疑・応答で盛り上がりました。記念品として、「豊彩会」名入りのソーイングセットを配布し、これも大変好評でした。

キックオフイベントを皮切りに、学内の女子学生向けのイベントにも共催をしてきました。2018年6月17日には、初の取り組みとして「学長と女子学生の懇談会」を開催しました。23名の女子学生が集まり、学長に要望、意見、質問など活発な意見交換が行われました。その内容はすべて、男女共同参画推進本部で整理し、特に要望につい

ては、各関係部署に対応を求め、回答書として女子学生に返答しました。たとえば、「各センターのスリッパが大きく、女子用のスリッパも備えてほしい」という要望などは、1週間以内に対応したものもあります。また、キャリア講演会を実施してほしいという要望に応え、2018年10月4日に、永田麻子様(㈱デンソーコネクティッド&コックピット開発部 次長)を、キャリア講演会の講師にお迎えしました。「がんばっていればきっと～あきらめずに頑張るこつ～」と題し、女子学生のキャリア形成のための心構え、ワークライフバランスのコツなどを伝授いただきました。大西学長も参加くださり、会場は大いに盛り上がりました。

今後、「豊彩会」は、同窓生と現役女子学生の交流、卒業生同士の交流、ネットワークの構築と情報提供など、活動を徐々に広げるにより、同窓会活動に華やかさと彩が増すことを期待しています。

最後に、同窓生の皆様のますますのご活躍と、これからの豊彩会の活動へのご協力を祈念しております。



「豊彩会のキックオフイベント」の様子

めざましごはんの実施報告

機械工学系 秋月 拓磨

卒業生・修了生の皆様におかれましては、平素より同窓会活動にご協力頂き誠にありがとうございます。2018年4月より本格的にスタートした、同窓会支援「めざましごはん プレミアムマンデー」の取り組みについて、ご報告させていただきます。

朝食からはじまるキャンパスライフ

突然ですが、月曜日の1限目の授業、皆様方が学生だったころを思い出してみいかがでしょうか？眠い目を擦りながら、始業前ギリギリで教室に飛び込む、そのような大学の風景は時代を問わず変わらないようです。また最近では、昼夜が逆転し生活のリズムを崩してしまい、講義を休みがちになる学生や体調だけでなく心の健康を保てない学生も少なくありません。

そのような状況を鑑み、本学では、2016年4月から「めざましごはん」の取り組みを始めました。この取り組みでは、低価格で栄養価の高い朝食メニューを本学学生食堂で提供することで、朝食をとることを習慣化し、学生の心と体の健康を増進することをねらいとしています。通常では350円程度のメニューを大学が費用の一部を負担することで200円で提供しています。

■「めざましごはん」のサービス内容：

- メニューは日替わりのビュッフェ形式
- ご飯・みそ汁は各1杯サービス
- 温菜・冷菜 143g 以内で自由に組み合わせる
- 料金：200円+消費税
- 対象：教職員・学生



図1：「めざましごはん プレミアムマンデー」のメニュー例

プレミアムマンデー

このような取り組みの中、同窓会でも「めざましごはん」を支援したい、という意見が2017年夏頃より同窓会役員会などで話題になりました。そこで、同窓会役員のほか、大西学長や「めざましごはん」の実施を取りまとめている学生課、また食堂事業者の日本ゼネラルフード様を交えた検討の結果、週のはじまりである月曜日の朝を支援する運びとなりました。具体的には、月曜日のめざましごはん限定で以下の追加サービスを同窓会で支援するというものです。

■「プレミアムマンデー」の追加内容

- 「パンまたはライスが選べる」
- 「ホットコーヒー1杯サービス」
- 「デザート小鉢1品サービス」

同窓会が資金的な援助を行うことで、料金は据え置き200円のまま、先述の「めざましごはん」に上記のメニューを追加で選ぶことができます(図1)。この取り組みを同窓会支援「めざましごはん プレミアムマンデー」と名付けました。

現状と今後

実際に、「プレミアムマンデー」の取り組みを2018年1～2月に試行したところ、前年度の同じ時期(2017年1月～2月)と比較し、月曜日の利用者数が合計で100人以上増加しました(図2)。この時期は学部4年生が実務訓練のため、キャンパス内の学生数そのものが減る時期ですが、逆に利用者数は増える結果となりました。これは「プレミアムマンデー」の取り組みとその周知がうまく機能した結果と思います。また、利用者のアンケート結果から、「お得感がある」「おいしい」「月曜のモチベーションが上がる」「これからも続けて欲しい」といったポジティブな声を多数いただきました。これを受けて、2018年4月から「プレミアムマンデー」の取組みを本格実施する運びとなりました。

2018年4月からの本格実施後は、前期(4月～7月)

は「プレミアムマンデー」の目標提供食数である一日100食を各月とも平均して達成(図3)しており、「めざましごはん」の利用促進に対して一定の効果があったのではと考えています。一方で、後期になると毎朝朝食の利用者数が減少傾向にあります。そのため、「プレミアムマンデー」の取り組みについて、学内でもあらためて周知することで、利用者数増加のきっかけにしたいと考えております(図4)。

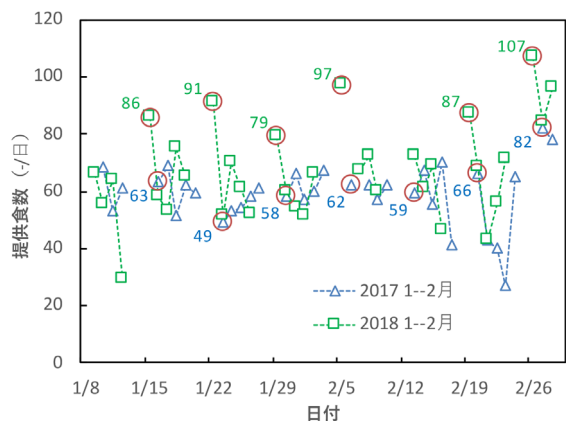


図2:「めざましごはん プレミアムマンデー」の試行結果。赤丸は月曜日の提供食数。2018年1-2月の全ての月曜で、前年度月曜の提供食数/日を上回る。

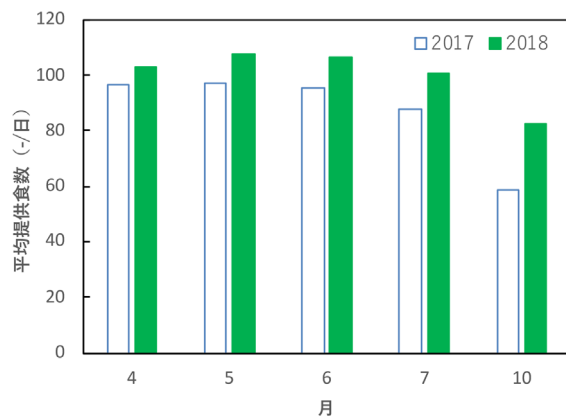


図3:月毎の月曜日の平均提供食数。2018年の前期は各月とも平均して目標の100食提供を達成。

現在、本学では学生の約3分の1がキャンパス内の宿舎に暮らしています。そのため、学生の朝食を支援する「めざましごはん」や「プレミアムマンデー」の取り組みは、学生や教職員の健康増進への効果も大きいと思います。卒業生・修了生の皆様におかれましては、引き続き、今後も「プレミアムマンデー」の取り組みに対して、ご理解とご協力をお願いできれば幸いです。

めざましごはん

プレミアムマンデー

「TUT同窓会」支援による

月曜日限定サービス

- パンまたはライスが選べる**
- ホットコーヒー1杯サービス**
- デザート小鉢1品サービス**

実施日: 5月7日以降 毎週月曜日(授業期間中)

時間: 8:00~9:00

内容: ビュッフェ形式(日替わり)
ごはん・みそ汁 各1杯サービス
温菜・冷菜 143g以内

料金: 200円+消費税
(温菜・冷菜は1gあたり1.3円+消費税が追加されます)

対象: 学生・教職員(学生証・職員証を持参して下さい)

2018.4 同窓会事務局 secretary@alumni.tut.jp

図4:「めざましごはん プレミアムマンデー」の周知ポスター

学内近況報告

系長 足立 忠晴



同窓会の皆様におかれましては、お元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成 22 年 4 月に学部・大学院組織を再編して、5 つの系と総合教育院において教育・研究が行われており、旧機械システム工学系(旧 1 系)および旧生産システム工学系(旧 2 系)を統合した機械工学系(1 系)として活動しております。

機械工学系の組織は、機械・システムデザインコース、材料・生産加工コース、システム制御・ロボットコース、環境・エネルギーコースの 4 つのコースで構成されており、それぞれのコースに 4 つの研究室があります。教員、学生ともコースに所属する研究室に在籍しております。

現在、教員は教授 14 名、准教授 13 名、助教 12 名となっています。平成 29 年度末にシステム制御・ロボットコースに所属されておりました寺嶋一彦 教授が定年退職され、本年 4 月より本学の理事・副学長として、ますます活躍されております。機械システムデザインコース所属の伊勢智彦 講師が近畿大学准教授として異動され、環境・エネルギーコース所属の光石暁彦助教が東京農工大学特任准教授として異動されました。また機械・システムデザインコースの阿部史枝助教が退職されました。本年 4 月には、環境・エネルギーコース所属学内のエレクトロシステム先端融合研究所からシステム制御・ロボットコースへ真下智昭准教授が異動され、機械・システムデザインコースへ鹿毛あずさ助教、システム制御・ロボットコースへ白砂絹和助教が着任されました。最近の大学の教員の流動化促進により多くの教員が異動しております。

平成 30 年 10 月現在で機械工学系所属の学部生は全体で 354 名です。また大学院博士前期課程の学生は 257 名であり、博士後期課程の学生は 33 名となっております。これらの学生数は本学の学生全体の 30% を超えて

おります。また女子学生が増え、機械工学系では学部生 27 名、大学院生 14 名となっています。以前から多くの留学生が来ているマレーシア、ベトナム、インドネシアだけでなくモンゴル、アフリカ諸国から多くの留学生が本学に来ており、学部生で 42 名、大学院生博士前期・後期課程で 34 名が学んでおります。日本語ができることを必ずしも条件としない学部生も入学してきております。一般教養科目、専門科目を含むほぼ全科目について、英語の教科書を使用し、説明および板書を日本語と英語を使用するバイリンガル授業が行われております。また留学生と日本人が同居するシェアハウス形式の学生寮もあり、新しくなった図書館において留学生と日本人学生が談話している様子もよく見受けられます。このように学内のグローバル化が進められております。

授業、学生生活を含めて以前の大学の雰囲気とは、随分、様変わりしたのではないかと思います。同窓会の皆様には機会を見つけて大学に来られてはいかがでしょうか。機械工学系全教員がお待ちしております。

教職員紹介(平成30年11月現在)

【機械・システムデザインコース】

教	授	足立 忠晴, 河村 庄造, 柴田 隆行, 森 謙一郎
准	教 授	安部 洋平, 竹市 嘉紀
講	師	永井 萌土
助	教	石井 陽介, 松原 真己, 鹿毛 あずさ

【材料・生産加工コース】

教	授	伊崎 昌伸, 戸高 義一, 福本 昌宏, 三浦 博己
准	教 授	小林 正和, 安井 利明, 横山 誠二
助	教	青葉 知弥, 足立 望, 笹野 順司, 山田 基宏

【システム制御・ロボットコース】

教	授	内山 直樹, 佐藤 海二, 章 忠
准	教 授	阪口 龍彦, 佐野 滋則, 三好 孝典, 真下 智昭
助	教	秋月 拓磨, 田崎 良佑, 白砂 絹和

【環境・エネルギーコース】

教	授	飯田 明由, 中村 祐二, 柳田 秀記, 中川 勝文(特定教授)
准	教 授	鈴木 孝司, 関下 信正, 横山 博史
助	教	西川原 理仁, 松岡 常吉, 川村 洋介(特定助教)



退職教員より

「私の研究者人生」

寺嶋 一彦

時の経つのは早いものです。昭和57年に京都から豊橋技科大に赴任して37年が経過。高校時代にアポロ宇宙船の月着陸に感激し、大学では機械工学を専攻。学部3年時にシステム制御理論という学問と運命の出会いを。制御理論の数学的証明や計算を毎日毎日飽きずに行っていた頃を懐かしく思い出します。狭くて深い範囲でしたが、システムの考え方や哲学を学べ、研究者としての土台を築けました。そろそろ制御の応用もしたいと考えた時に、突然本学からお声がかかった次第です。

赴任した本学の工程制御研究室では、元トヨタ自動車(株)部長であった教授の坂野武男先生が機械工学(Casting 分野) 専門、野村宏之先生が金属工学専門、そして私が制御工学専門ということで、まさに異分野融合の組織でした。砂型鑄造のトータルシステムのプロセス解析、モデリングと制御の研究が研究室のテーマで新鮮な気持ちで取り組みました。"砂は生きている"という言葉もあり、極めて難しい現象でしたが、シミュレーション解析と実験を並行して研究を進め、うまく実証した時には感激したものです。学生は、技術に熱心で、実験のうまさ、技術力の高さには驚きましたが、一緒によく勉強、議論し、時には遊びもしました。若い学生と一緒に研究するのは素晴らしいことです。

それから12年たち教授に。自分で新たな研究分野を切り開く時期になりました。鑄造プロセス分野の最適制御に

加え、メカトロシステム分野の搬送制御・振動制御、ロボット制御の研究を開始しました。ロボットでは、多指多関節ハンド・冗長アームや全方向移動ビークルの研究を出発に、介護、リハビリ、サービスロボットなど知能ロボットの研究と共に、人間・ロボット共生リサーチセンターを平成22年に立ち上げ、人間とロボットの共生システムの研究に取り組みました。色々な応用分野の制御を行い、それを理論体系にフィードバックし、制御の理論構築と応用の研究に没頭できました。

振り返ると、学術論文450編(解説論文、審査付国際会議論文も含む)、著書10数編、特許60数件が掲載され、また、1年間の海外留学(ミュンヘン工科大学)と国際会議での論文発表のために77回の海外出張(延べ2年)を経験しました。自分の研究の主張を世の中に向かって自由にできるのは、大学研究者に与えられた特典です。さらに300人以上の研究室卒業生、20数名の博士取得者、10数名の大学・高専など教育機関への研究者を輩出できたのも、周りの方に恵まれたお蔭です。

一昔前は、人生50年という言葉もありましたが、今は、人生100年時代と言われるようになりました。今後も、やりたいことを思う存分追求し、"いつでも夢を"持った人生を送りたく思います。最後になりますが、今までお世話になった皆様への深い感謝、御礼と共に、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。





機械工学系 助教 鹿毛 あずさ

2018年4月1日付で機械工学系に助教として着任しました鹿毛あずさです。「かげ」と読みます。出身は北海道苫小牧市で、東京のお茶の水女子大学で9年間過ごして博士(理学)の学位を取得し、本学に着任前は東北大学工学部機械・知能系に勤務しておりました。もともとは生物学者で、専門は重力生物学・細胞運動、特に微生物の遊泳です。微生物の運動と重力を駆動力とする生物対流現象を中心に、集団運動や微生物の重力応答のメカニズム解明を主軸として研究してきました。基本的にレイノルズ数は1より小さい世界で「生きています」、というのは脳内の話で、わたくし本人はホモ・サピエンスに分類され、人類社会の一角を占めています。

機械工学系に生物学者とは奇異な話に聞こえるかもしれませんが、もちろん生物も一種の機械です。生物流体力学、バイオメカニクスという括りで採用いただいたと解釈しております。機械工学と生物学を融合して新たな分野を切り開く気概で進んでいきたいと存じます。

苫小牧人の常として暑さに大変弱く、2018年豊橋の過酷な夏をなんとか生き延びてほっとしております。冬は元気に生きたいと思います。助教は「さん」付けで呼ぶ文化で育ったので、やっと「鹿毛先生」と呼ばれ慣れてきました。工学部の教員としてまだまだ頼りない部分が多いですが、よろしく願い申し上げます。



機械工学系 助教 白砂 絹和

2018年4月より、機械工学系システム工学研究室に助教として着任をいたしました白砂絹和と申します。

修士課程までは日本女子大学理学研究科にて数学を専攻し、博士課程後期は本学機械工学研究科計測システム研究室に在籍しておりました。章先生からのご指導のもと2017年3月に修了しました。第二の母校である本学で教員として、お世話になりました先生方、そして後輩にあたる学生の皆さんとの日々を嬉しく感じております。

主な研究は、ウェーブレット変換を用いて、睡眠時無呼吸症(SAS)の音声のみを用いた早期予備群発見についてです。SAS罹患者は完治の概念がない生活習慣病併発率が非常に高く、早期発見が重要と考えています。今後は、この研究をもとに他分野への応用を検討しております。

まだ不慣れな部分も多く、先生方、職員の方をはじめ学生の皆さんの温かいお心遣いに支えて頂きながら、感謝と共に過ごしております。



機械工学系 准教授 真下 智昭

2018年4月付で、機械工学系に着任しました真下といいます。その前には、本学のエレクトロニクス先端融合研究所に在籍しておりました。2011年に、出来たばかりの同研究所に、テニユアトラック助教として着任し、5年後にテニユアを取得して准教授となり、その後の異動で機械工学系に来ました。

私の研究の専門は、圧電アクチュエータ、センサ、ロボティクスです。最近では、マイクロ超音波モータの開発に力を入れています。サイズは約1mmで、 $10\ \mu\text{Nm}$ 以上のトルク（半径1mmで1gfの力）を取り出すことができます。このサイズでこれほどのトルクを出せるモータは世界的にも他に無く、先行研究で同様のサイズのモータと比べると、200倍以上大きいトルクを発生することに成功しています。機械工学系の中では、計測システム研究室に所属し、章教授、秋月助教と共同で、研究室の運営を行っております。計測システム研究室の中では、AIやディープラーニングなど、今まで知らなかったことも勉強しながら刺激的な毎日を過ごしています。

研究室だより

機械工学系

機械ダイナミクス研究室の近況報告

佐藤 恒星

本学卒業生ならびに修了生の皆様方におかれましては
お元気でご活躍のことと拝察いたします。今年度の機械
ダイナミクス研究室の近況についてご報告申し上げます。

現在、本研究室は河村庄造教授、松原真己助教の下、
博士前期課程 19 名、学部生 8 名、後期から博士後期課
程の学生が 1 名加わり、総勢 28 名となっております。ま
た 3 年間講師として務められた伊勢智彦講師は、本年
度の春から近畿大学に准教授として移られました。

加えて湯川治敏愛知大学教授、安田好文本学名誉教
授に協力教員としてご教授いただきながら、研究に励ん
でおります。

本研究室では機械・機器・構造物・スポーツ用具な
どの人工物および身体運動の動的挙動に注目したモデル
化、解析、設計に関する研究を行っており、研究内容と
してはいくつかのテーマに分けられております。

1 つは機械・構造物の診断・設計に関する研究です。
層状構造物のどこかの外壁や結合部に異常が発生した場
合に、ひずみを測定することで異常を特定する手法の提
案や長周期地震動によって振動振幅が大きくなった場合
に、免震装置の固有振動数を高くして共振を抑制するシ
ステムの設計などを行っています。

またタイヤを対象としたモデル化も行っており、タイヤ

の 3 次元弾性リングモデルを用いて応答解析を行い、実
測との比較で妥当性の検証、ホイールの力学特性を加味
したモデリング、それを用いた種々の力学解析などを行っ
ています。

さらにスポーツ工学分野の研究にも取り組んでいます。
けがの予防・抑制を目的としたロングパイル人工芝の数
学モデルの同定および衝撃緩衝性の評価や、筋骨格モデ
リングソフトウェアの逆動力学解析による身体特性の評
価を行っています。

研究活動以外の行事として新入生歓迎会や打ち上げも
頻繁に行っています。本研究室ではスポーツ大会に力を
入れており、開催されるものには全て参加しているの
ですが、その中でも駅伝大会には特に注力しています。年々
成績が良くなっており、来年度こそは優勝を目指してい
ます。

ご多用とは存じますが、豊橋方面にお越しになる機会
がございましたら、研究室にお気軽にお立ち寄りください。
研究室一同、心よりお待ちしております。

最後となりましたが、卒業生・修了生の皆様の益々
のご活躍を祈念しますと共に、今後とも研究室にご支援
くださいますようお願い申し上げます。



092120029

高強度マテリアル開発・評価研究室の近況報告

金山 弥旦

本学の卒業生・修了生の皆様におかれましては、ご健勝のことと存じます。

本研究室は、三浦博巳教授、小林正和准教授、青葉知弥助教、田中洋子秘書、学生 22 名(博士後期課程 1 名、博士前期課程 10 名、学部生 11 名)の総勢 26 名となっております。昨年度は、残念ながら諸事情により、研究室を異動される学生が多く目立ちました。さらに今年度は、研究室配属希望人数が過去に例をみないほど少なく、深刻な人材不足が懸念されましたが、幸いにも高い志を持った学生が多く配属され、例年以上の活気が感じられるようになりました。

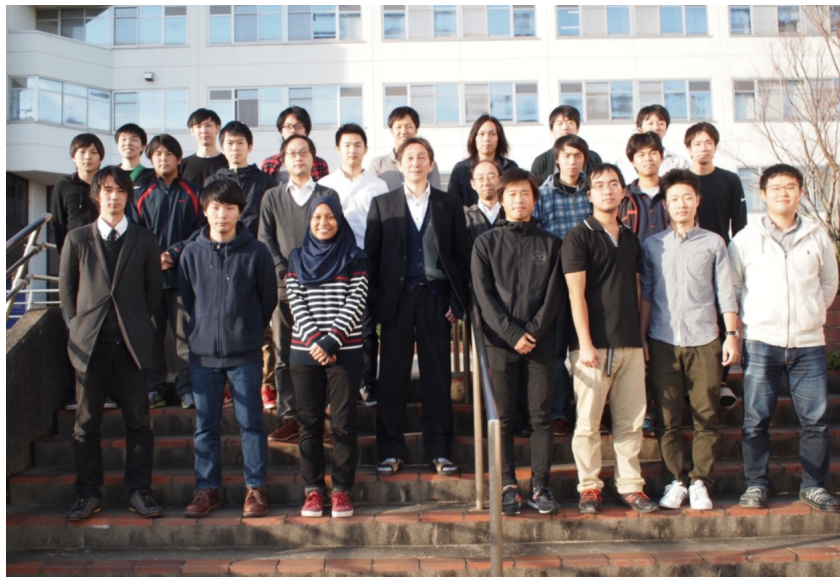
本研究室では、ナノメートルオーダーの結晶粒径を有する新素材バルク金属・合金の創製と高強度化、塑性変形、破壊などに関する諸問題や、高温加工とその後の熱処理に基づく組織制御などの研究に取り組んでいます。また、高輝度放射光施設 SPring-8 にて金属材料の X 線 CT 観察を行い、金属材料のマイクロ組織を高分解能で 3-D 可視化をしています。これにより、材料の変形、損傷、破壊、疲労過程の各種現象の解明が可能になると期待されています。さらに、材料内部のマイクロ組織特徴点の追跡により材料内部の力学量(応力、ひずみ、変位、き裂進展駆動力など)を 3-D 高密度計測する研究を行って

います。

研究成果を報告するため、ポスター発表や学会などにも積極的に参加をしております。今年度行われた、軽金属学会 東海支部主催の若手研究者ポスター講演会において、2 人の学生が奨励賞を受賞するなど、輝かしい成果を収めています。研究室の近況・受賞歴などにつきましては研究室ホームページ(<http://www.str.me.tut.ac.jp>)にも掲載しておりますのでご覧頂ければ幸いです。

研究室内では、激動の社会を生き抜くため、日々、材料のみならず、心身ともに鍛えております。多くの学生は、わが国の発展に寄与すべく、自主的に「月月火水木金金」で研究に励んでおります。中には、自宅に帰らずに、研究室の座椅子を「夢の床」としている学生も見受けられます。リフレッシュのため、研究活動だけではなく、新入生歓迎会や打ち上げ、旅行(ダム巡りなど)といった行事を定期的に行っており、研究室のメンバー同士が仲睦まじいのが特徴です。いつも和気あいあいとしており、学生居室にスマートフォンをタップする音と、ポップな音楽がこだますることも決して珍しくはありません。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様のますますのご活躍を祈念しますとともに、今後とも研究室にご支援くださいますようお願い申し上げます。



システム制御研究室の近況報告

笹竹 晴萌

卒業生の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。システム制御研究室の近況についてご報告申し上げます。

現在、三好孝典准教授、田崎良佑助教のもと、博士後期課程4名、博士前期課程22名、学部生6名で研究に動いております。昨年度には社会人博士学生1名に加え、ダブルディグリープログラムによりドイツからの留学生1名とパキスタンと香港からも留学生を迎えることができ、留学生が6人も在籍する非常に国際色豊かな研究室となっております。また一昨年まで、本研究室の教授であった寺嶋一彦教授は名誉教授になられ、さらにそのかたわら本学 理事・副学長として引き続き本学のためにご尽力いただいております。

また、現在、研究室で進めている研究としまして、ロボティクスとシステム制御の2つの分野に分けられます。ロボティクスの分野では、介護支援ロボット Terapio や歩行支援ロボットなどによる介護・リハビリ支援技術の開発や、ベッドから車いすへの移乗動作を支援するロボットの開発、より多様な遠隔コミュニケーションを可能にするテレコピーロボットや多人数が一度にインターネットを介して遊べる力覚協調型デバイスの研究、さらには農業ロボットの開発を行っています。また、制御工学の分野

におきましても、溶けた金属を鋳型に精度良く注ぐ自動注湯や船上の旋回クレーンの振動を抑制する制御理論の構築、また、ロボットアームによるバリ取りにおける手先圧力制御などの研究を行っております。これらの研究成果は国際会議である IEEE CCTA2018 や自動制御連合講演会などで発表しており、また、最新の研究成果は当研究室の Web ページでも随時公表しております。

研究活動以外の行事としては、茶話会やボーリング大会、忘年会、追いコンなどの催し物を行っており、先輩後輩関係なく楽しんでおり、研究の良いリフレッシュになるとともに、当研究室の学生間の距離が近いことを改めて感じさせてくれます。

ご多忙とは存じますが、豊橋方面にお越しになる際は、ぜひ当研究室にお立ち寄りください。研究室一同お待ちしております。

最後となりましたが、卒業生・修了生の皆様のますますの弥栄をお祈り申し上げます。



学内近況報告

准教授 河野 剛士

修了生、卒業生の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。今年は、例年以上に豪雨災害、台風、そして大地震とそれに伴う大規模な土砂災害等が各地で起きました。豊橋でも台風の影響で、大学も含めて各所で停電が発生しました。被災者の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

話は遡りますが、今年の4月に本系の電気・電子情報工学系に新しい学生達が入学、編入してきております。今年の1年次の入学者数は4名で3年次の編入学者数においては85名でありました。

先ず本系に関するご報告の一つとして、旧3系(旧電気・電子工学系)名誉教授の榊原建樹先生(元岐阜高専校長)が、その長年にわたる教育と研究に対する功績として平成30年度秋の瑞宝中綬章(教育研究功労)を受賞されました。謹んでご報告させて頂くとともに今後とも榊原建樹先生のご健勝とますますのご活躍をお祈りします。

さて昨年度に引き続き数名の先生方の異動がありましたのでご連絡させていただきます。先ず、平成30年8月31日付けで、東城友都先生が本系機能電気システムコースの助教から静岡理工科大学工学部の講師として転出されております。また、集積電子システムコースからは平成30年3月31日付けで助教の秋田一平先生が産業技術総合研究所へ転出されました。材料エレクトロニクスコースで准教授の高木宏幸先生が退職されました。一方で、平成30年10月1日付けで野田俊彦先生が奈良先端科学技術大学院大学から本学エレクトロニクス先端融合研究所の准教授および本系の兼任教員として就任されています。また、集積電子システムコースの高橋一浩先生が平成30年10月1日付けで同コースの講師から准教授に昇進されました。

以上、電気・電子情報工学系の近況報告をさせて頂きました。さて、来年においては、4月に入学する学生は平成最後の学生となります。“平成”という時代の区切りに

対し、これまでの本系の取り組みを振り返りつつも、今後の“新しい時代”に向けた本系の人材育成、教育研究の更なる改善、取り組みが必要になると思われます。今後とも、本系教職員一同今まで以上に精進し、社会に貢献できる人材育成、教育研究活動を引き続き行っていきますので、同窓生の皆様には引き続きご支援、ご指導を賜れば幸いです。

教職員紹介(平成30年11月現在)

【材料エレクトロニクスコース】

教 授	福田 光男, 松田 厚範, 内田 裕久, 武藤 浩行 ^{*1} , 井上 光輝 ^{*1}
准 教 授	服部 敏明, 中村 雄一, 石山 武, Lim Pang Boey ^{*2} , 加藤 亮 ^{*3}
助 教	河村 剛, 後藤 太一

【機能電気システムコース】

教 授	櫻井 庸司, 穂積 直裕, 滝川 浩史
准 教 授	稲田 亮史, 須田 善行, 村上 義信
助 教	針谷 達, 谷本 壮, 川島 朋裕
技術専門職員	日比 美彦

【集積電子システムコース】

教 授	若原 昭浩, 澤田 和明, 石川 靖彦, 岡田 浩 ^{*1}
准 教 授	河野 剛士, 関口 寛人, 高橋 一浩, 野田 俊彦 ^{*4}
助 教	赤井 大輔 ^{*4} , 山根 啓輔, 岩田 達哉
助 手	李 宥奈
技術専門職員	飛沢 健

【情報通信システムコース】

教 授	大平 孝, 市川 周一, 上原 秀幸
准 教 授	田村 昌也, 竹内 啓悟
助 教	藤枝 直輝, 宮路 祐一, 坂井 尚貴

*1 総合教育院, *2 グローバル工学教育推進機構, *3 教育研究基盤センター, *4 エレクトロニクス先端融合研究所

研究室だより

電気・電子情報工学系

光・電子融合デバイス(OEG)グループの近況報告

博士前期課程2年 田中 俊介

卒業生・修了生の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。光・電子融合デバイス(OEG)グループの近況を報告致します。

本研究グループは、若原昭浩教授、岡田浩教授、関口寛人准教授、山根啓輔助教のもと、博士後期課程2名、博士前期課程21名、学部11名が在籍し、日々研究に励んでいます。

本研究グループでは、GaNに代表される窒化物系発光デバイスと光センサ、信号処理回路をワンチップに集積することで、宇宙空間など過酷な環境においても高感度かつ高精度で動作可能な情報処理センサの開発、化合物半導体の結晶成長を基盤とした希土類添加 GaN LEDの開発および Si 太陽電池上と化合物太陽電池を多接合化した超高効率な太陽電池の開発を主に行っております。最近では、Si 基板上に化合物半導体(GaAsPN) デバイスを作製することに成功し、太陽電池開発に向けた研究意欲が加速してきています。また、GaN を用いた発光デバイスを医療分野に応用する研究が新規に立ち上がり、実際に動物実験に用いるなど、基礎研究だけでなく応用分野でも成果が出てきており、学会発表では国内外から高い評価を頂いております。

研究グループの雰囲気は、各々の研究テーマに基づき

自主的に実験や議論を重ね、時には天気の良い日には、研究室の皆で中庭でキャッチボールやサッカーをして息抜きをするなどメリハリある研究生活が過ごせています。また、新入生歓迎会、夏旅行、夏と秋の運動会、忘年会など多くの行事があり、飲み会などでは先生と学生、先輩と後輩関係なく、大いに盛り上がります。今年の夏旅行では大阪と滋賀を観光し、初日の大阪ではOBの方も参加した盛大な飲み会となりました。

以上のような充実した研究生活を過ごせるのは、卒業生・修了生の皆様の積み重ねが基盤となっているものと考えております。心から感謝致しますとともに、より一層、この研究室が活躍できますよう日々努めてまいりたいと存じます。

末筆ながら、諸先輩方の更なるご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。



ワイヤレス通信研究室の近況報告

博士前期課程1年 石井 建至

卒業生ならびに修了生の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。本稿では、ワイヤレス通信研究室の近況をご報告させていただきます。

ワイヤレス通信研究室は現在、上原秀幸教授、宮路祐一助教の下、博士後期課程学生2名、博士前期課程学生8名、学部生4名の計16名で日々研究に励んでいます。

本研究室では、ワイヤレスの機能を活かした通信、ネットワーク、センシングの技術課題に取り組んでいます。

無線通信では、帯域内全二重の実現に向けた研究を行っています。帯域内全二重は、同一周波数で同一時刻に上りと下りの通信を可能とします。基地局が発した信号が携帯端末からの信号と干渉してしまう技術課題に挑戦しています。干渉信号を除去するフィルタの開発やソフトウェア無線機を用いたフィールド実験を行っています。

無線ネットワークでは、複数の通信を効率化するための研究を行っています。1対1の通信とは異なり、送信タイミングや通信経路の制御が技術課題です。移動速度、消費電力、干渉状況などの情報から適切にタイミングや経路を制御することでネットワーク内の通信を、より円滑に、より低コストで行うことを目指しています。

無線センシングでは、電波を利用した位置推定や端末識別の研究を行っています。電波伝播の複雑さに対する

推定精度の向上が課題です。複雑さに対処するため、屋内の電波環境を指紋に見立てデータベースに登録・照合することで、位置推定の精度改善を目指しています。また、通信端末の個体差から端末識別を同時に達成します。

これらの研究活動に関して、研究室のホームページ(<http://www.comm.ee.tut.ac.jp/wc/>)で公開しております。お時間があるときにご覧いただけたら幸いです。

研究室の年間行事には、新入生歓迎会、研究室旅行、学内駅伝大会などがあります。また、情報通信分野の他研究室と合同で、ボウリングやソフトボール大会を開催しています。研究室内の行事では先輩・後輩間の親睦を、他研究室合同の行事では研究室間の交流を深めております。

ご多忙とは存じますが、豊橋方面へ来られる機会がありましたら、是非研究室に足をお運びください。卒業・修了後の社会人の経験談など貴重なお話が頂けたら幸いです。研究室一同心より歓迎致します。

最後になりますが、卒業生・修了生の皆様の益々のご発展をお祈り申し上げますと共に、今後とも研究室にご支援くださいますようお願い申し上げます。



機能性材料科学研究室・プロセス評価解析研究室の近況

博士前期課程2年 桑名 崇矢

卒業生・修了生の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。諸先輩方におかれましては、それぞれの職場にて日々ご健勝のことと存じます。

当研究室は機能性材料科学研究室とプロセス評価解析研究室の合同研究室であり、現在は松田厚範教授、武藤浩行教授、河村剛助教、Tan Wai Kian 助教、Nguyen Huu Huy Phuc 特任助教、大河原まゆみ秘書、鈴木桂子秘書、鈴木いずみ秘書、スタッフ（非常勤研究員3名、ポスドク2名）、および学生（受託研究員1名特別研究学生1名、博士後期課程1名、博士前期課程17名、学部6名）の計39名で構成されております。

当研究室では、ゾル-ゲル法、メカノケミカル法、交互積層法などを用いた新規機能性材料の創製、それらの燃料電池や二次電池、太陽電池、光触媒、マルチフェロイック材料への応用研究を行っており、国内外での学会発表・論文発表を積極的に行っております。上記手法により作製された材料は、その形状や配置が高度に制御されたナノ構造を有するという特徴があり、従来の材料にはない特異的な物性を示すことから、エネルギーデバイス等への実用化を検討しております。

研究室の行事として、新入生歓迎会、材料エレクトロニクス分野の全研究室との合同遠足、松田教授宅での

バーベキューパーティ、一泊二日の研究室旅行、送別会などを行い、先輩と後輩、先生と学生という垣根を越えて一同の親睦を深めております。

これまでの研究室のより詳細な活動内容につきましては、ウェブサイト (<http://ion.ee.tut.ac.jp/>) にて公開しておりますので、お時間のあるときにお目通し頂ければ幸いです。

卒業生ならびに修了生の皆さま方におかれましては、大変ご多用のことと存じますが、豊橋へお越しになる機会がございましたら当研究室へお気軽にお立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ち申し上げます。またその際に、在学中や卒業後、修了後の貴重なお話をお聞かせいただければ嬉しく思います。

末筆ながら、諸先輩方の今後の更なるご活躍とご発展を心よりお祈り申し上げます。



電気分析化学研究室の近況

博士前期課程1年 高宮 貴一

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。諸先輩方におかれましては、それぞれの職場にて日々ご健勝のことと存じます。

当研究室は服部敏明准教授、加藤亮准教授、および学生（博士前期課程7名、学部6名）で構成されています。

服部研究室では、澤田研究室で開発されている CCD 型 pH イメージセンサ上にキャスト法、インクジェット法、ゾルゲル法によりイオン感応膜の製膜と、生体刺激デバイスとして電気化学刺激プローブの開発を行っています。これにより、今まで見ることでできなかったイオン動態を観測することができ、生体実験への適応が期待されています。

加藤研究室では、エレクトロスピニング法を利用した ナノファイバーの作製やセンサ分子を用いた元素の分光学的検出法の開発に取り組んでいます。土壌や産業排水中に含まれる元素の中には国の規定で厳しく取り締まられているものも少なくないため、それら微量元素の定量および同定は重要な課題となっています。

服部研究室・加藤研究室合同の研究報告会を設け、教員・学生間で活発に議論や知見の共有を行っています。また、これらの研究内容について国内外での学会発表・

論文発表を積極的に行っております。

研究室の行事として、新入生歓迎会、材料エレクトロニクス分野の研究室との合同遠足、食事会、忘年会、送別会などを行い、先輩と後輩、先生と学生という垣根を越えて一同の親睦を深めています。

これまでの研究室のより詳細な活動内容につきましては、ウェブサイト (<http://www.electroanalyt.tut.ac.jp/>) にて公開しておりますので、お時間のあるときにお目通し頂ければ幸いです。

卒業生並びに修了生の皆様方におかれましては大変ご多用のことと存じますが、豊橋へお越しになる機会がございましたら研究室にお気軽にお立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ちしております。また、その際に、在学中や卒業、修了後の貴重なお話を聞かせ頂ければ嬉しく思います。

末筆ながら、諸先輩方の今後の更なるご活躍と発展を心よりお祈り申し上げます



学内近況報告

系長 栗山 繁

同窓生の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

「人工知能」という用語が多くの機会メディアに取り上げられ、一般的な認知度を得ると共に、それへの期待や不安が広がっています。この第3次ブームとも呼ばれている流行の影響でしょうか、一般入試で入学した学生の本系への進学希望者数が過去最大（68名中21名、系毎の人数としても最大）となり、新入生の情報技術への関心の高まりを裏付ける現象が見られました。

今年は台風による自然災害が各所で発生しましたが、豊橋市にも台風24号では甚大な被害が及びました。本学の設備に関しては幸いにも大きな被害は無かった様ですが、本系に関しましてはF棟2階の事務室隣の面談部屋で外面の窓ガラスが1枚割れたのと、外に設置されていた空調設備が故障しました。豊橋市内の多くの地域でも停電が発生し、自然災害の怖さを痛感しました。

本学は昨年度より「グローバル技術科学アーキテクト養成コース」を実施しており、外国人留学生の人数も増え続けています。その影響もあつてのことでしょうか、本系の学生も海外志向が高まっております。年度の初めに海外実務訓練に関するアンケート調査をしたところ、本系からは約半数を超える希望者があつたと聞いております。日本の若者の海外離れが懸念される中、この希望者の大幅な増加は特筆に値すべきことと存じます。

本系の例年行事としては、インドネシアのバンドン工科大学とタイのプラハ大学との共催による国際会議(ICAICTA2018)をタイのクラブというリゾート地で開催しました。本年度はこの国際会議を発足してから5年目という節目を迎えた事もあり、学部3年次の学生に高専時代の研究内容をポスター発表する機会を設けて参加者を募りました。その結果、希望した3名を会議に系の予算で派遣することとなり、参加した学生達の満足度も高かった様です。今後もさらなる規模拡大とレベルアップを

目指して開催を続けていく所存です。

国際会議以外の国際交流も積極的に進めており、マレーシアの Disted カレッジとの協定によるツイニング・プログラムは昨年度からマレーシア側の大学に10名程度の学生が入学しました。来年度には試験を実施し、それを突破した学生が再来年度から本学に編入する予定です。また、東フィンランド大学との協定によるダブルディグリー・プログラムも来年から入学生を迎える予定で着々と準備を進めております。これは、複数の国内およびフィンランドの企業とタイアップして課題解決型の研究を進めていく、斬新かつ実践的なプログラムとなっております。このように、本系もグローバルな視点で物事を考え世界で活躍できる人材の養成に資する活動を積極的に進めております。

さて、本年度も数名の先生方の異動がありました。本学の教育研究に長年貢献されてこられました増山繁教授が定年で退職されましたが、現在も非常勤講師としてご尽力を頂いております。また、本年3月には大石修士助教が、9月には東広志助教が京都大学に転出されました。一方、本年4月には鈴木幸太郎教授、佐藤幸紀教授、林宏太郎助教、8月には遠藤結城助教、10月には浅川徹也助教が着任されました。また、本年5月にはF棟事務室の宮崎早苗さんが退職し、その後任として大武順子さんが着任しました。

情報技術に対する世間の期待は日増しに大きくなっていますが、情報・知能工学系では今後も教育・研究活動に邁進し、人類や社会に貢献できる人物を養成して参ります。

同窓生の皆様におかれましては、引き続きご支援とご指導をお願いいたたく存じます。

教職員一覧及び学生現員(平成30年10月現在)

【計算機数理科学分野 (Computer & Mathematical Sciences)】

氏名	職名	専門分野
石田 好輝	教授	知能システム学,統合AI
鈴木 幸太郎	教授	情報セキュリティ
藤戸 敏弘	教授	計算機科学
河合 和久	准教授	コンピュータサイエンス
栗田 典之	准教授	量子生物学,計算科学,ドラッグデザイン
後藤 仁志	准教授	計算化学,ハイパフォーマンスコンピューティング
佐藤 幸紀	准教授	計算機アーキテクチャ,計算機システム,ソフトウェア性能工学
相田 慎	助教	計算量理論
木村 慧	助教	離散最適化,アルゴリズム
原田 耕治	助教	数理生物学,ウイルス学,複雑系科学

【データ情報学分野 (Data Informatics)】

氏名	職名	専門分野
青野 雅樹	教授	情報検索,データマイニング
梅村 恭司	教授	情報工学
秋葉 友良	准教授	知能情報学
渡辺 一帆	講師	統計的学習理論,機械学習
吉田 光男	助教	ウェブ工学,自然言語処理
井佐原 均	教授	言語情報学(情報メディア基盤センター 兼任)
土屋 雅稔	准教授	自然言語処理,応用情報システム(情報メディア基盤センター 兼任)

【ヒューマン・ブレイン情報学分野 (Human & Brain Informatics)】

氏名	職名	専門分野
高橋 由雅	教授	分子情報工学,ケモインフォマティクス
中内 茂樹	教授	知覚認知情報学
北崎 充晃	教授	心理物理学,認知神経学
福村 直博	准教授	計算論的神経科学
村越 一支	准教授	計算知能
松井 淑恵	准教授	聴覚心理学,音楽心理学,演奏科学
桂樹 哲雄	助教	分子情報工学,情報生命学
杉本 俊二	助教	神経科学
上田 祥代	助教	知覚心理学,認知科学
鯉田 孝和	准教授	視覚神経科学(エレクトロニクス先端融合研究所 兼任)
南 哲人	准教授	認知神経科学(エレクトロニクス先端融合研究所 兼任)

【メディア・ロボット情報学分野 (Media Informatics & Robotics)】

氏名	職名	専門分野
岡田美智男	教授	認知科学・社会的ロボティクス
栗山 繁	教授	画像/映像/CG関連メディア,イメージセンサ通信,知的照明
三浦 純	教授	知能ロボティクス
金澤 靖	准教授	コンピュータビジョン,画像処理
菅谷 保之	准教授	コンピュータビジョン
大村 廉	講師	ユビキタス・コンピューティング,システムソフトウェア
長谷川孔明	助教	ヒューマンエージェントインタラクション
林 宏太郎	助教	ヒューマン・ロボット インタラクション,認知科学,社会学
遠藤 結城	助教	コンピュータグラフィックス,画像処理,深層学習

【事務関係】

事務職員：加藤 恵子 (C棟事務室)
 山本 沙愛, 滝川 陽子, 大武 順子 (F棟事務室)
 技術職員：片岡 嘉孝, 小西 和孝

【学生現員】

学 部：1年次 24名, 2年次 20名, 3年次 95名, 4年次 97名
 博士前期：1年次 81名, 2年次 101名
 博士後期：24名



退職教員より

「少年老い易く学成り難し」

情報・知能工学系 名誉教授 増山 繁

平成元年4月、新設間もない知識情報工学系に着任しました。系の建物は建設中で技術開発センターの2階に間借りしていました。周りは一面のキャベツ、白菜、スイカ畑で、冬は強風で計算機に砂が入る、そんな環境でしたが、1期生は特に進取の気性に富んでいて大変印象深かったです。写真は旧知識情報工学課程卒業20周年記念クラス会で集まった1期生の集合写真です。

講師以上は独立した研究室を持つという初代系長佐々木慎一先生（第3代学長）の方針で、従前同様、自由に研究でき、「流行を追うのではなく、流行を作り出そう!」をモットーに研究を続けてきました。以前からのテーマ、グラフ・ネットワークを対象とした離散最適化に加え、学生の強い希望があり、元々興味があった自然言語処理の研究を開始しました。まず、テキスト自動要約の研究に取り組み、この分野で草分けの研究室の一つです。

爾来、一貫して、意味的表現の研究、特に交通事故、景気動向原因表現、その発展として因果関係を表す表現の抽出とその特許分析への応用等を主に研究してきました。「大雨によって鉄道が不通になった。」が因果関係を表すことが分かるのは、「…によって」という原因を表す表現があるからです。そこに着目して、まず、因果関係を表す同様の表現（手がかり表現）を集め、更に、因果関係を表す表現パターンが、基本パターン「原因+手がかり表現+結果」を基本形とし、そのバリエーションを含め、5つに分類されることを解明しました。また、文がどの分類に属するかの自動判定法の確立に成功しました。自然言語処理は計算機性能とメモリ集積度の目を見張るような発展、インターネットの爆発的な普及、Googleの急激な成長と相まって、現在AI（人工知能）の中心技術の一つとして脚光を浴びており、隔世の感があります。グラフ・ネットワークを対象とした離散最適化においては、通信網、電力網、交通網、鉄道・野球試合スケジューリングなどの離散的構造を持つ最適化問題を対象に研究してきました。特に、インターネット、移動体通信、AGV（自動搬送車）の急激な発展

により新たに出現してきた問題に重点を置いて研究してきました。問題のもつ構造を解明し、それを活用して効率の良いアルゴリズムを設計することを主な研究方針としてきました。研究生生活全体において115編の査読付き学術雑誌論文（解説等を除く）、それとの重複を省き、44編の国際会議論文を公表できました。

お陰様で110名近くの優秀でやる気のある学生を指導することができました。上記、研究成果の大半は彼らが在学中の共同研究によるものです。博士課程まで進学したのも十数名に達し、名古屋学院大、徳島大、長岡技科大、岡山理科大、NTT研究所、情報通信研究機構、釧路高専（論文博士）、成蹊大、広島工業大、LINE、サイバーエージェント、東大、日立製作所、理研革新知能統合研究センター、鳥羽商船高専等で、大いに活躍しています。

目の前の問題に追われ夢中で過ごす間に29年間経ち、平成の終わりを目前に定年を迎えるのは感慨深いです。浅学菲才の身、未だ分からないことばかりで、多くの研究課題をやり残しており、好奇心衰えず、気分は青年ですので、定年後も地道に研究、教育に精進していくつもりです。

末筆ですが、優秀で、熱心にサポート頂いた歴代の秘書、系事務室・全学共通事務官の皆様へ深謝の意を表するとともに、本学の益々の発展と皆さまのご多幸を衷心より祈念して筆を置きます。





新任教員より



情報・知能工学系 助教 遠藤 結城

2018年8月より情報・知能工学系メディア・ロボット情報学分野の助教として着任しました、遠藤結城と申します。学部から博士前期課程まで筑波大学に在籍し、修了後は民間企業の研究者として約4年半勤務しました。退職後は筑波大学に助教として勤務しながら、同大学の社会人博士後期課程で三谷純教授、金森由博准教授の御指導のもと、博士(工学)の学位を取得しました。2年間の任期を務めた後、この度本学でお世話になることになりました。

専門はコンピュータグラフィックス(CG)です。CGと言っても、内容はみなさんがすぐに思い浮かぶだろう映画のような3DCG、写真のような2D、はたまた3Dプリンタを使ったものづくりなど、多岐にわたります。私はその中でも主にデジタル画像を自然に加工・生成できる技術の研究に取り組んでいます。今まではどうすればコンピュータがリアルな画像を作り出せるかを、研究者が試行錯誤して考えてきました。それをインターネットの世界にあふれる膨大な映像データから、今流行りの人工知能に自ら学ばせることができるか、ということの研究をしています。会社員時代は様々な機械学習アルゴリズムを駆使したデータマイニングの研究にも従事してきたため、その経験も活かして日々研究に取り組んでいく所存です。

豊橋に来てまだ数か月しか経ちませんが、周りに自然が多く、出身地の新潟と異なり降雪も少ないとのことで、特段不便もなく過ごしやすい生活を送っています。また、着任して右も左もわからない中、教員や事務の方々には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。本学の発展に貢献出来るよう精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。



情報・知能工学系 助教 林 宏太郎

2018年4月2日付けで情報・知能工学系に助教として着任いたしました。林宏太郎と申します。出身は大阪府河内長野市という来年度から自動運転の実証実験が行われるところです。幼き頃からロボットに興味があり、大阪大学に入学。学部においてマツコロイドなどで有名な石黒浩先生に出会ったのが運の尽きでした。けいはんな学研都市に存在する国際電気通信基礎技術研究所という世界トップクラスの研究所に送り込まれ、その後から今に続くまで、人とロボットのコミュニケーションについて研究に従事しております。

2016年頃より、各メーカーがこぞって人の隣にいるコミュニケーション・ロボットを次々と世に出し始めました。インテリジェント・スピーカーなどもその一つです。1万円程度で家庭に置くことのできる世の中です。しかし、実際皆さんの家庭の中でロボットは欠かすことのできないものになっているのでしょうか。大事な家族になっているのでしょうか。なるためにロボットは何をしなければならぬのでしょうか。どのようなロボット・デザインを持たねばならないのでしょうか。既に走り始めた人とロボットの関わりで、人同士で交わされるような僅かなサインをロボットが行うことで人はどう感じるか? について現在は研究を行っております。

前職は東京農工大学で特任助教をしておりまして、この度はじめて正規の教員として働かせていただくことになりました。至らぬことも多々あるかと思いますが、何卒よろしく願いいたします。



情報・知能工学系 准教授 佐藤 幸紀

2018年4月に着任しました佐藤幸紀です。専門は計算機アーキテクチャで、東北大学で博士の学位を取得後、ファブレス半導体設計ベンチャー企業、北陸先端科学技術大学院大学、東京工業大学にて計算機システムの理論から応用、実装、実運用に渡り幅広く研究開発を行ってまいりました。本学の情報・知能工学系では計算機システム性能工学研究室を主宰し、スーパーコンピュータからモバイル機器・組み込み機器に至るまでのあらゆる計算機システムを対象に見据えて、それらの計算性能を科学的に分析・推定・改善していく手法の研究開発を進めております。近年の人工知能技術の中核をなす深層学習処理においては現状のCPU/GPU技術だけでは計算性能がまだまだ足りていないといわれております。すなわち、今後期待されている人工知能技術に駆動される未来の超スマート社会を実現する上では計算機システムの性能不足問題の解決は急務であり、高性能で高効率な計算機システムを実現する技術は自動運転や知的ロボットなどの新しい応用に向けて鍵（Enabler）となる技術として高い期待を集めています。

このような技術動向の下、性能不足の問題を解決する糸口はソフトウェアのメモリ参照局所性を的確にハードウェアの特性にカスタマイズすることとの着想の下、高性能計算、プログラミング、ソフトウェア、アーキテクチャ、ハードウェア設計といった関連分野の英知を結集し、①メモリシステムを中心としたカスタム化やコデザイン、②システムレベルでの性能品質の科学的モデリング、③数理最適化や深層学習によるカスタマイズの自動化についての研究を行い、計算機システムの処理性能効率や実現コストの改善を追求しようと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



情報・知能工学系 准教授 松井 淑恵

2017年11月にテニユアトラック准教授として着任しました松井淑恵です。専門は聴覚心理学・音楽心理学で、聴覚末梢のはたらきを計算モデルとして表現するための基礎心理実験から、音楽の知覚認知実験まで、音に関連する知覚認知を幅広く扱っています。

修士課程までは、京都市立芸術大学でピアノ演奏を専攻しておりました。それがなぜ技科大へ!?と初対面の方には必ず驚かれます。当初は演奏者として音楽心理学という分野を知り、いま自分がここで弾き、聞いている音が、どのようにして「音楽」として受容されるのか知りたいと思うようになりました。ところが、専門書や論文を読んでみると、個々の音のピッチの知覚すら決定版モデルと呼べるものはなかったのです。音楽が聞こえてくる、ということとは、音のピッチや大きさに始まり、同時に存在する音の関係であるハーモニー、音の時間軸の関係であるリズムなど、さまざまな要素の知覚認知とその統合の上に成り立ちます。楽譜の上の音符より「今ここで感じる音楽」に興味があった私は、聴知覚の入り口である聴覚末梢のモデル化の研究に関わるようになりました。現在は音楽だけではなく、学生と一緒に模擬難聴や音声の感情の知覚に関する研究も行っています。とくに模擬難聴研究は、高齢化社会におけるコミュニケーションの一助になればと願って多くの共同研究者と進めています。

着任から1年がたった今でも、理系教員としてはまだまだ初心者同然で、周りの先生方、事務の方々、学生のおかげでなんとか走り続けられている状態です。本学の多様な研究分野にさらに面白い研究を追加すべく努力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



2018年4月1日より情報・知能工学系の教授に着任いたしました、鈴木幸太郎と申します。出身は東京都で、学部から博士課程まで東京大学に在籍し、河野俊丈教授のご指導のもと博士(数理科学)の学位を取得いたしました。学位取得後、NTT研究所に在籍し、横須賀と武蔵野の研究所で情報セキュリティ特に暗号技術に関する研究開発に携わり、その後、4月より本学に着任いたしました。豊橋に住んで1年近くになりますが、新幹線が停まり交通の便もよく、気候が温和で住みやすくてよいところだと思います。

専門分野は、情報セキュリティの理論研究の分野である暗号理論で、特に暗号技術を組み合わせて安全に通信や情報処理を行うにはどうしたらよいかを研究する、暗号プロトコルの研究に興味があります。公開の通信路で安全に通信を行うための暗号プロトコルである鍵交換や、参加者が各自の秘密情報を秘匿したままに秘密情報の任意の関数を計算するための暗号プロトコルである秘匿計算などの研究を行っています。

企業の研究所から参りましたので不慣れで至らない点多々あるかと思いますが、教職員の皆様ほか多くの方々に支えて頂き研究教育活動を行っておりますこと、大変感謝しております。また、研究教育で優れた成果を挙げ本学の発展に貢献できますよう精一杯努めて参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

4 環境・生命工学系

学内近況報告

系長 松本 明彦

同窓生の皆様におかれましては、元氣でご活躍のことと存じます。環境・生命工学系の近況についてお知らせします。前号の同窓会報以降、環境・生命工学系教員の異動はありません。平成30年度より系長が松本、副系長が齊戸美弘教授、浴俊彦教授で環境・生命工学系を運営しています。環境・生命工学系に所属する教員は、先端環境技術、生態工学、生命工学、分子機能化学の各分野で引き続き活発な教育・研究活動を行っております。研究室一覧および教員は別表をご覧ください。本系の学生・教員の受賞や研究成果のプレスリリースなど最新の情報は本学ホームページや環境・生命工学系ホームページをご覧ください。また、前号の同窓会報で、お知らせしたJABEE（日本技術者教育認定機構）の受審については、審査の結果、2017年4月1日から6年間の認定を受けました。審査の結果は3年後の中間受審が必要になる場合が多いのですが、全期間を通して認定されたことは大いに喜ばしいことでした。受審に際し、数名の卒業生・修了生の方々には、大学にお越しいただき審査委員との面談にご協力いただきました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

既にご存知の方もいらっしゃると思いますが、平成31年4月1日から「環境・生命工学課程／専攻」の名称を「応用化学・生命工学課程／専攻」に変更します。平成22年度の学科再編で旧「物質工学課程／専攻」と旧「エコロジー工学課程／専攻」を「環境・生命工学課程／専攻」としてスタートして9年が経過しました。環境・生命工学課程／専攻は、物質科学（応用化学）と生命科学を基盤として環境科学等の複合的分野をも視野に入れた課程／専攻として、幅広い視野を持つ高度技術者及び研究者の育成を目的として教育・研究を行って参りました。このたび、化学の重要性に対する社会の認識の一層の向上と、本課程／専攻の専門基礎教育の拡充に対応するとともに、受験生及び産業

界に対して「応用化学」が本課程／専攻の教育研究基盤の一つであることを明確に示すために課程及び専攻の名称を変更します。変更にあたっては在学生・保護者・高専教員などを対象としたアンケートを行い、賛成の意見がほとんどだったことに励まされ変更手続きを進めることにした次第です。こうして本年6月に文部科学省より平成31年度からの名称変更が認められました。現在は教員配置や教育課程など具体的な検討を継続的に進めています。また、名称変更を記念して平成30年9月22日に「応用化学・生命工学シンポジウム」を開催しました。シンポジウムには化学・生物系学科を有する高専の先生方を全国からお招きし、鈴鹿高専校長 吉田潤一先生、本学を修了し高専教員として活躍されていらっしゃる函館高専副校長（教務主事）・物質環境工学科教授 小林淳哉先生、久留米高専生物応用化学科准教授 渡邊勝宏先生から名称変更に対する期待のお言葉を頂戴いたしました。シンポジウムには在学生も数多く参加し、これからの本系の教育・研究への取り組みについて確認しました。同日に開催した情報交換会では、本系教員と多くの高専の先生方が交流を深めることができ、今後の本系と高専の連携の一層の強化を確認して成功裏に終了いたしました。「環境・生命工学」という名称が無くなるのは、本系の卒業生にとって寂しいことと思われるかもしれませんが、本系のさらなる飛躍のための名称変更であることをご理解いただき、今後とも本系の教育・研究活動に一層のご理解・ご支援を賜れますようお願い申し上げます。末筆ながら、同窓生の皆様の益々のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

環境・生命工学系現員表(平成30年11月現在)

本務教員				兼務教員			
コース	分野	研究室名	教職員名	本務所属	研究室名	教職員名	
未来環境工学コース	先端環境技術	バイオセンシング応用研究室	田中 三郎 教授	教育研究基盤センター	無機材料研究室	中野 裕美 教授	
		機能性界面科学研究室	松本 明彦 教授 伊藤 博光 助教				
		光センシング応用研究室	有吉 誠一郎 准教授				
		反応エネルギー工学研究室	小口 達夫 准教授				
		反応性プラズマ科学研究室	高島 和則 教授 栗田 弘史 助教 安田 八郎 助手				
	生態工学	機能触媒システム工学研究室	水嶋 生智 教授 佐藤 裕久 助教 大北 博宣 助手	国際交流センター	資源循環工学研究室	大門 裕之 教授	
		大気・熱環境システム研究室	東海林 孝幸 講師				
	生命・物質工学コース	生命工学	分子遺伝学研究室	浴 俊彦 教授 広瀬 侑 助教	エレクトロニクス先端融合研究所	応用共生学研究室	中鉢 淳 准教授
			遺伝子工学研究室	田中 照通 准教授			
			生体機能制御工学研究室	沼野 利佳 准教授			
生体分子工学研究室			吉田 絵里 准教授				
生命科学研究室			梅影 創 講師				
水圏環境生物工学研究室			山田 剛史 講師				
生命機能科学研究室			吉田 祥子 講師				
分子機能化学		高分子機能化学研究室	伊津野 真一 教授 藤澤 郁英 助手				
		有機合成化学研究室	岩佐 精二 教授				
		マイクロ分離科学研究室	齊戸 美弘 教授				
		高分子材料工学研究室	辻 秀人 教授 荒川 優樹 助教				
		有機反応化学研究室	柴富 一孝 准教授				
		界面物理化学研究室	手老 龍吾 准教授				
		機能性高分子化学研究室	原口 直樹 准教授				

環境・生命工学系事務室	B棟事務室	河合 充代
	G棟事務室	森川 夕紀子

研究室だより

環境・生命工学系

水圏環境生物工学研究室の近況

博士前期課程2年 萩原 達也

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様方には、益々ご健勝のことと存じます。簡単にはございますが、本稿では、水圏環境生物工学研究室（山田研究室）の近況についてご報告いたします。現在、当研究室は、山田剛史講師以下、博士後期課程1名、博士前期課程2名、学部生2名、技術補佐員1名の7名で活動を行っております。当研究室では、生物学的な環境制御・保全技術の発展を目的として、微生物群集の機能解明や微生物検出技術の開発などの研究に取り組んでおります。また、地球上の微生物は99%が、未だ発見されていないと言われております。当研究室では、それらの微生物を分離して、機能解明を行い、学名をつけることも同時に行っております。簡単ではありますが、以下に当研究室で取り組んでいる研究内容について記載いたします。

(1) ポリ乳酸廃材を原料とするメタン発酵法の最適化と微生物群集の評価

ポリ乳酸は、化学的性質、物理的性質に優れており、石油系プラスチックの代替材として有望とされている生分解性プラスチックの一つです。将来、プラスチックとしての役目を終えたポリ乳酸廃材の適切な処理のため、当研究室では、ポリ乳酸を原料としたメタン発酵法の最適化を行っております。また、実験室スケールのメタン発酵リアクターから分離した微生物の機能を解明し、その情報をもとにリアクターの効率的に運転するための研究を展開しております。

(2) 嫌気性廃水処理技術の次世代型制御技術の創成

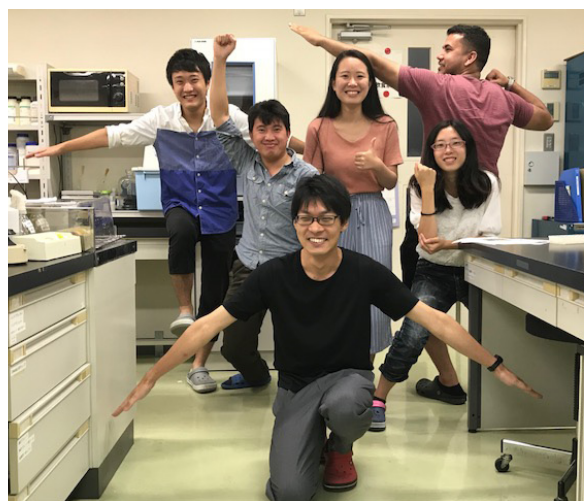
嫌気性廃水処理技術は曝気による電力が必要でなく、廃水処理時の副生成物としてメタンが回収できることから省エネルギー・創エネルギー型の廃水処理技術として注目を浴びています。しかしながら、嫌気性廃水処理技術の普及と適用可能な廃水種の拡大に伴い、新たな問題が表面化してきております。当研究室では、運転上問題となる数々の課題に対して、微生物生態学、分子生物学、廃水処理工学の分野複合的な視点で解明し、嫌気性廃水処理プロセスの安定化と高効率化を目指した次世代型

制御技術の開発に取り組んでおります。

(3) 廃水処理プロセスにおける特定微生物の迅速・簡便な計測法の開発

廃水処理プロセス内は pH や温度などの水質指標に基づき運転・管理が行われており、実際にプロセス内で活動している微生物については半ば、ブラックボックスのような存在として扱われているのが現状です。そのため、処理水質の悪化などのプロセスに重大な問題が起こってしまった場合、原状回復に大きな労力を必要としてまいります。この問題を解決するため、水質指標だけでなく、プロセス内で活動している特定の微生物も指標とした、水質と微生物の相互補完的な管理体制を整えることが必要です。当研究室では、廃水処理プロセス内の特定微生物を簡便・迅速に検出する新しい技術の開発に取り組んでいます。

皆様、ご多忙のことかと存じますが、豊橋にいらした際には是非研究室へお越しください。最後になりますが、皆様のさらなるご活躍を研究室一同心よりお祈りしております。



生命機能科学研究室の近況

博士前期課程2年 西川 ちひろ

生命機能科学研究室(旧称:生命構造機能科学研究室、生化学研究室)の卒業生・修了生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本研究室は現在、吉田祥子講師とともに博士1年1名、修士2年3名、修士1年3名、学部4年4名、企業からの研究員1名、学部2年1名の計13名で日々研究に勤しんでおります。12月にはニューヨーク市立大学の大学院生も参加します。

研究活動については、自閉症スペクトラム障害(ASD)に関連した小脳発達の解明を目的とした「ASD小脳発達チーム」、ガン細胞および筋肉細胞、皮膚の細胞・組織の構造や物性を調査する「超音波チーム」、昨年度から発足した小脳発達における炎症と腸内細菌叢の相関を示唆する「腸内細菌チーム」と、主に3つのチームに分かれて研究しています。小脳発達チームではこれまでASDモデルラットの作製にバルプロ酸(VPA)を用いていましたが、これ以外にも除草剤として使用されるグリホサートや炎症誘発物質のリポポリサッカライド(LPS)など様々な作用機序をもつ化学物質を利用しています。

本研究室に配属する学生に対して吉田先生が必ずする質問があります。「君はネズミを切ることができそうか。」—小脳発達を観察するにはどうしても動物の命が関わってきますが、先ほどご紹介した、超音波と腸内細菌のチー

ムでは必ずしも動物を切らなければいけないわけではありません。そして、超音波チームは本学の電気・電子工学系の研究室と、腸内細菌チームはアメリカの大学・研究機関さらには愛知県内食品企業との共同研究の上で進めています。小脳にとどまらない、様々な領域へのアプローチは私たち学生にとっても生命機能科学を幅広く学べるチャンスをもたらしてくれます。また研究室のゼミだけでなく、神経科学学会をはじめとする学会でも研究成果を発表し、今後の研究に活かせるように各々が懸命に取り組んでいます。

本研究室の情報につきましては、Web site (<http://rodent.ens.tut.ac.jp/>)にて公開しておりますので、お時間のあるときに一度ご覧いただければ幸いです。現在のメンバーや研究活動などが掲載されています。

卒業生、修了生の皆様方におかれましては大変お忙しいことと存じますが、豊橋へお越しになる機会がございましたら研究室にお立ち寄りください。その際に、在学中や就職活動、卒業・終了後の貴重なお話を拝聴できることを楽しみに、研究室一同、心よりお待ち申し上げます。

末筆ながら、皆様の今後のさらなるご活躍をお祈りいたしております。



5 建築・都市システム学系

学内近況報告

准教授 松本 幸大

同窓生の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

近年の大学における大きな変革の一つであるグローバル化に対する挑戦も軌道に乗り、建築・都市システム学系においても多くの留学生の受け入れや海外実務訓練、国際的視野を養う教育に取り組んでおります。留学生の受け入れについては、約10年の実績を有するベトナム・ダナン工科大学とのツインニングプログラム(学部3年生に編入)の他、本年度より、モンゴル科学大学とのツインニングプログラム1期生学生(学部3年生に編入)が3名入学しています。学部1年および学部3年次編入学においてはグローバル技術科学アーキテクト養成コース(GAC)による入学生も増えてきており、多くの講義は日英併記資料などによる実施を進めております。大学院においてもインドネシア・ハサヌディン大学や昨年度国際会議を共催したマレーシア科学大学とのツインニングプログラムを進めており、今後の共同研究・国際協働プロジェクトへの発展が期待されます。特に、近年は国内のみならず地球規模での自然災害が多く発生しており社会基盤・建築分野に携わる研究者は社会的使命を意識し、日々の研究・教育に万進しております。

こうした状況の中、建築・都市システム学系の全教員が構成員として参画する安全安心地域共創リサーチセンターでは、齊藤大樹教授を中心に東三河防災カレッジの開催や防災シンポジウムを継続的に企画・運営し、地域の防災減災に繋がる基礎知識などを講義形式や演習・実習、見学会によって修得できる機会を設けております。中でも、同カレッジの長期履修コースは本年度に文部科学省の「職業実践力育成プログラム(BP)」の認定を受けることができました。自然災害の発生や防災についての基礎知識に加え、災害発生後の業務継続や早期復旧および耐震診断・補強などの実用的な知識、さらには災害時の避難所運営や防災まちづくりなど地域防災力の向上に不可欠な知識を習得し、企業・自治体等の防災計画の策定や災害時の緊急対応において指導的な役割を担える人材を育成することを目的に実施しております。同窓生性の皆様におかれましても、ご興味・ご

参加をいただけましたら系一同歓迎させていただきます。

今年度、本系で学んでいる学生は、学部173名(うち留学生25名)、大学院博士前期課程91名(うち留学生17名)、博士後期課程17名(うち留学生14名)(いずれも12月現在)となっております。学部1年生入学生の多くは後期から希望に応じた課程に配属しますが、近年、建築・都市システム学系への配属を希望する学生が増えており、社会的ニーズや注目を浴びつつある専門分野と系一同実感をしております。また、留学生数も増加傾向にあり、国際的研究テーマの拡充も一層広がると共に、日本人学生にとっても刺激の増える学生生活となることと思います。

教職員メンバーでは、残念なことに昨年度まで系長を務められた宮田譲先生が7月18日に逝去されました。系や大学運営、学生指導に尽力された宮田先生を失ってしまったことは残念でなりません。新任教員としては、小野悠先生・島崎康弘先生を迎え、教授9名、准教授6名、講師3名、助教7名、助手1名、技術専門職員2名、事務職員4名(10月現在)の体制となっております。

末筆ながら、同窓生の皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

教職員一覧(平成30年10月現在)

【建築・都市デザイン学分野】

教 授	浅野 純一郎, 齊藤 大樹, 都築 和代, 中澤 祥二, 松島 史朗, 中森 康之(兼任)
准 教 授	島崎 康弘(新任), 松井 智哉, 松本 幸大
講 師	小野 悠(新任), 水谷 晃啓
助 教	辛島 一樹, 鍋島 佑基, 林 和宏, 劉 一辰

【都市・地域マネジメント学分野】

教 授	井上 隆信, 加藤 茂, 三浦 均也(系長)
准 教 授	渋谷 博幸, 杉木 直, 横田 久里子
講 師	松田 達也
助 教	岡辺 拓巳, 中村 亮太, 松尾 幸二郎
助 手	嵯峨 慎

【両分野】

技術専門職員	片岡 三枝子, 金田 隆文
--------	---------------



新任教員より



建築・都市システム学系 講師 小野 悠 (おの はるか)

2017年12月に着任しました小野悠です。世界約50カ国を旅し、各地の風景や人々の暮らし、その背後にあるシステムに興味を持ち、都市計画を学びました。学生時代はアフリカ都市で人々と暮らしを共にすることで、都市化の原理の解明に努めました。その後、愛媛大学に籍を置き、公民学連携によるまちづくりを実践する松山アーバンデザインセンターで都市デザインやまちづくりの仕事に携わりました。都市の原理や理論の精緻化に向け、研究と実践に邁進したいと思います。どうぞ、よろしくをお願いします。

研究室だより

建築・都市システム学系

地盤力学研究室の近況報告

建築・都市システム学系 講師 松田 達也

同窓生の皆様におかれましては、各方面にてご活躍のことと思います。

2018年11月現在、地盤力学研究室には博士後期課程1名、博士前期課程5名、学部9名の学生が配属されており、三浦均也教授とともに研究に励んでいます。

現在、主として「杭基礎の設計・施工法の開発」、「波浪による土砂移動メカニズムの解明と構造物の安定性評価」に取り組んでおります。

杭基礎の設計・施工法の開発では、これまでに看板や交通標識の基礎に用いられる重力式基礎が抱える問題を解消するため、「独自に開発した層状地盤に適用できる杭のたわみ解析手法」、「独自に開発した支柱と杭の結合構造」、「地盤改良体を造成する杭の打設工法」の3つの技術の開発を進めて参りました。既に本研究で得られた成果を持って、実施工が行われており、研究室のホームページに掲載しておりますので、一度、ご覧ください。また、現在では、本技術を援用し、擁壁基礎、防潮壁基礎への適用を検討しております。

波浪による土砂移動メカニズムの解明と構造物の安定性評価では、これまで研究を進めてきた数式解を拡張し、構造物周りの検討を進めております。現在は、直線構造物、円柱構造物を対象とした構造物周りの土砂移動現象の解明に取り組んでおります。また、杭基礎構造である有脚式離岸堤という構造物に関する波浪場の安定性についても検討を進めており、前述した杭基礎技術を併せて研究を展開しております。さらに、重力場における造波

水路実験も並行して実施し、波浪場の移動床実験において地盤の有効応力変動を考慮した土砂移動メカニズムの解明を行っております。本研究で得られた成果は土木学会論文集B2(海岸工学)へ投稿しており、2017年には、海岸工学論文奨励賞を受賞しました。

研究以外の行事としては、昨年度、ゼミ旅行で静岡県へ行き、駿河湾に建設されている有脚式離岸堤の見学会、島田市の大井川にある伝統的河川工法(大聖牛)を見学しました。ゼミ旅行以外でも、現場見学等へ積極的に赴き、普段、大学では学べないことを五感で感じ、吸収しています。

本研究室の研究や活動の一部は、研究室のホームページ(<http://www.geomech.ace.tut.ac.jp/>)で紹介していますので、ぜひご覧になってください。

今後、現役生とOB・OGの交流の機会を設けたいと考えております。第2回地盤・防災研究室OB会(2009年)が開催されてから10年が経とうとしております。ぜひ、第3回を開催できればと存じます。OB・OGの皆様におかれましては、ご連絡先を松田までお送り頂けますと幸いです。

末筆ではございますが、同窓生の皆様におかれましては大変お忙しいこととは存じますが、豊橋方面へ来られることがありましたら、お気軽に研究室にお立ち寄り下さい。研究室一同、心よりお待ちしております。皆様が今後ますますご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。



宮田讓先生のご逝去について

建築・都市システム学系 系長 三浦 均也

長年、本学で教育・研究に尽力された宮田讓先生が2018年7月18日にご逝去されました。この同窓会報で、同窓生の皆様にご連絡をしなければならぬことが残念でなりません。

先生の活動の場は我々と大きく重なるものですから長い交流がありましたが、2010年の大学の組織再編の際に、総合教育院から正式に移られ、建築・都市システム学系(旧建設工学系)の長屋の一員になりました。これまで、教育・研究活動を通じての本学、そして社会への多大な貢献はさることながら、本系の運営にもご尽力いただきました。特に2016年4月から2018年3月までの2年間は、系長を務めていただきました。実は、ご病気のことを知らされたのは丁度その任期が始まろうとしていた時でした。長期にわたって治療が必要になるということで、我々は正直動揺いたしました。しかし、先生ご本人はいささかの迷いも見せずに、任期を全うするとおっしゃられました。任期中は、治療が終わった翌日でも授業やゼミ、学内の諸会議に出席され、毅然として職務を全うされました。今になりますと、我々はあの時先生に甘え過ぎたのではないかと、繰り返し後悔しているところです。しかし、そのころの先生はむしろ闘志が漲っているようなご様子で、先頭に立って我々を牽引していただきました。

我々は学内にあっても所帯が小さいものですから、社会や学内に吹く冷たい風をまともに受けることがあります。小さいゆえの悲哀のようなものを常に感じています。その中であって、真に最後の力を振り絞るように、先頭に立って寒風に向かっていただきました。ご自身の苦しい状況にあっても乱れず、凜とした立居ぶるまい、私には到底まねできないものですが、我々一同、苦しいときにこそ先生の在りし日の姿を思い出し、勇気をもって歩を進めてまいりたいと思っております。

系内では先生の後を継ぐ者も遅しく育っています。次世代を担う若手もたくさんいます。そして、我々の結束力は常日頃から他系に羨まれるほどです。少子高齢化の社会事情、環境問題や経済の波が我々に押し寄せています。

近い将来には災害に直面し、我々の存在意義が問われる事態にもなるでしょう。その中に合っても、我々建築・都市システム学系は知恵を絞り、勇気をもって行動し、社会に貢献し続けることをお誓いいたします。

宮田先生は学内で誰よりも多くの授業を担当されてきました。たくさんの学生、留学生の面倒を見られ、論文をたくさん書かれてきました。長い間ご苦勞様でした。本来であれば、このような挨拶、お礼を申し上げるのは、2019年3月に定年退職をお祝いする席での予定でした。返す返すも早すぎのご逝去が悔やまれます。これからは、ご家族はもちろんのこと、我々のことも見守っていただきたいと思います。心よりご冥福をお祈りいたします。そして、ありがとうございました。

宮田讓先生は2018年7月18日付けで、以下の通り、叙位・叙勲を受けられましたことをここに報告申し上げます。

- ・位階：従四位
- ・勲章：瑞宝小綬章





同窓会事務局より

・・・・・・・・ 同窓会事業報告および予定（平成29年度～30年度） ・・・・・・・・

1. 定例役員会の開催

平成30年度は、平成29年10月末現在までに1回の定例役員会を開催し、事業計画、予算、Web名簿システムの運用等に関して話し合いました。第2～4回は平成30年12月～平成31年3月の間に開催予定です。役員会議事録は、ホームページ上（<http://www.alumni.tut.jp/>）にて閲覧できます。

2. 学長との懇談会

平成30年8月1日に華乃井テラスにて大西学長との懇談会を行いました。大学執行部からは、大西学長、大貝理事・副学長、寺嶋理事・副学長、児島事務局長、同窓会からは古野会長、高嶋顧問、戸高副会長、稲田副会長が出席しました。同窓会より、平成29年度に同窓会で実施した大学支援・連携に係る活動報告と平成30年度の活動計画を説明し、大学で導入を計画している「卒業生情報管理システム」に係る同窓会との協力量針について意見交換を行いました。

3. 定例総会の開催

平成30年8月25日に、豊橋駅前サテライトオフィスにて定例総会を開催し、平成29年度の事業報告および収支決算報告を行うと共に、平成30年度の事業計画および収支予算案の内容について議論し、承認を得ました。総会の議事録は、ホームページ上（<http://www.alumni.tut.jp/>）にて閲覧できます。

4. 会報の発行

同窓会報第35号を平成30年3月に発行しました。これまでと同様に、会報は電子化してホームページ（<http://www.alumni.tut.jp/>）にて公開しており、随時閲覧可能になっています。第36号（本号）は平成30年度中の発行に向けて編集作業を進めており、Web名簿システムを介した同窓生の皆様への会報発行のメール周知を予定しています。

5. Web名簿システムの運用

平成27年5月より運用開始したWeb名簿システムに関して、新会員の登録・ID/Password発行、案内等の返送情報に基づく登録情報の更新、既登録会員の情報追加修正、会員登録方法・本人確認などの問合せ対応、同窓会・大学からの一斉メール通知、名簿情報提供用データの作成等を行いました。また、名簿登録情報収集の拡充に向けて、平成29年12月に有効な会員住所宛にID/パスワード通知書を再送付しました。これらのシステム管理に係る作業の増加に伴い、事務補佐員で定期的に対応するようにしました。

平成30年度は、これまでと同様にシステムを継続運用すると共に、大学で導入を計画している「卒業生情報管理システム」について、卒業生連携室と連携・協力して必要な作業を進める予定です。

6. OG同窓会「豊彩会」での活動

昨年度発足したOG同窓会「豊彩会」と本学男女共同産学推進本部の共催の下、平成30年3月13日に本学図書館1階にてキックオフイベントを開催し、実施に係る経費支援を行いました。同イベントでは、2名の講師（うち1名は本学OG）を

招き、講演いただきました（写真）。参加者には、記念品としてソーイングセットを配布しました。また、平成30年3月10日放送のFM豊橋「天伯之城 ギガダイ」にて、豊彩会の発足・キックオフイベントの開催を中心に本学同窓会活動のPRを行いました。



平成30年6月7日には、本学男女共同参画推進室との共催で、学長-本学女子学生懇談会を開催し、参加した女子学生24名に、記念品としてソーイングセットを配布しました。また、本学女子学生からのリクエストを踏まえて、平成30年10月4日に男女共同参画推進室との共催でキャリア講演会を開催しています。

7. 卒業記念パーティーの開催

平成30年3月23日にアイプラザ豊橋にて行われた大学院修了式・学部卒業式後に、大学学生食堂において学友会との共催で卒業記念パーティーを開催しました。学友会からの開催費支援の申請に対し、例年通り25万円を支援しました。記念パーティーには、古野会長、高嶋顧問、稲田副会長、安部准教授、蒲原助教が出席しました。平成30年度（平成31年3月22日）も、例年通り行う予定です。

8. 同窓会会長賞

平成30年4月に本学大学院博士前期課程に進学した学部4年次成績優秀者19名に同窓会会長賞を授与しました（学生の選出は各系に一任）。平成30年3月23日の卒業記念パーティー冒頭に同窓会会長賞授与式を実施し、古野会長から各学生に賞状・副賞を授与しました。本制度は、平成30年度も継続して実施する予定です。

9. 学生活動への援助

大学学生課との共同で、学生活動援助を平成30年度は15団体に行いました。詳細は本文をご覧ください。

10. 大学食堂「めざましごはん」経費の支援

大学食堂の朝食「めざましごはん」について、平成30年1月からの授業開講期間において、週1日（月曜日）の朝食経費の一部支援を開始しました。通常メニューに追加するサービス内容（パン/ライス選択可、コーヒー一杯無料、デザート・小鉢一杯無料、等）については、大西学長、学生課、大学食堂業者（日本ゼネラルフード株式会社）と議論し決定しました。前年度（平成29年）1～2月における月曜日朝食利用者数を比較して、明らかな利用者数の増加が見られ、サービス内容に関するアンケート結果も好評でした。これを踏まえて平成30年度も5月より、「めざましごはんプレミアムマンデー」として、週1日（月曜日）の朝食経費の一部支援を実施しています。

11. 懇親会、パーティー等交流活動開催の助成

本学同窓生が参加する懇親会、パーティー等の交流活動を支援しています。平成30年度は平成30年11月現在までに申請のあった11件の交流活動に対して助成を行いました。詳細は本文をご覧ください。なお、同窓生支援事業の詳細・申請方法はホームページ上 (<http://www.alumni.tut.jp/>) に掲載されていますので、是非ご覧ください。

12. 海外同窓会活動

平成29年8月5日に本学ペナン校にて、「TUT卒業生との研究ネットワーク・ワークショップ」を開催し、本学及びマレーシアの大学に勤めている同窓生との共同研究に係る議論を行いました。本ワークショップには、同窓生10名と本学の教員7名が出席しました(写真上)。また、同日午後には「TUTマレーシア海外同窓生会議」を開催し、同窓会マレーシア支部の活動状況と本学の最近の状況(GACコース、図書館改修等)を共有した。

平成30年3月2日に、マレーシア支部会長 Mr. Zaba bin Youn (1990年卒業) と同窓生 Ms. Khalsom Mohd. Ali (1990年卒業) が来学し、本学留学生との面談及び大学見学を行い、留学生懇談会に出席しました(写真下)。



平成29年度 豊橋技術科学大学同窓会会長賞



開学 40 周年記念同窓会事業の一つとして、研究者・技術者としての更なる飛躍が期待される学生を支援することを目的として、平成 28 年度に同窓会会長賞を新設しました。実施 2 年目となる平成 29 年度について、平成 30 年 4 月に本学大学院博士前期課程に進学する学部 4 年次成績優秀者 19 名を表彰しました（表彰学生の選出は各系に一任）。

所属課程	表彰学生※
機械工学課程	川上 大智, 佐々木 悠真, 寺本 真ノ将, 前田 崇登, 吉澤 直樹, Leong Choon Yip
電気・電子情報工学課程	岩本 文吾, 雌熊 宏隆, 田中 佐和子, 二村 真司
情報・知能工学課程	浅川 玲音, 駒田 航平, 田森 琢陽, 吉田 司
環境・生命工学課程	井上 颯斗, 紙本 小夏, 藤井 琢真
建築・都市システム学課程	江口 悠貴, 木村 巧

※各課程の所属学生数を考慮して表彰学生数を決めているため、課程間で差があります。

平成 30 年 3 月 23 日に大学食堂で開催された卒業記念パーティー冒頭に同窓会会長賞授与式を実施し、古野会長から各学生に賞状・副賞を授与しました。本制度は、今後も継続して実施します。



学生への賞状の授与



古野会長と受賞学生との記念撮影

平成29年度 同窓会収支報告・事業報告

平成29年度 豊橋技術科学大学同窓会 決算報告

予算

■ 収入の部

入会金(380名×5,000)	1,900,000
会費(380名×10,000)	3,800,000
預金利息	1,000
H29年度収入計	5,701,000
H28年度からの繰越金	59,115,182
合 計	64,816,182

決算

■ 収入の部

入会金(380名×5,000)	1,900,000	
会費(380名×10,000)	3,800,000	
預金利息	692	
郵便普通		6
銀行普通(三井住友)		298
銀行定期(三井住友)		388
	0	
H29年度収入計	5,700,692	
H28年度からの繰越金	59,115,182	
合 計	64,815,874	

予算

■ 支出の部

会報No.35経費	300,000
役員経費	130,000
庶務経費	150,000
海外同窓会出張費	500,000
卒業記念パーティ援助金	250,000
学生課外活動援助金	500,000
同窓生懇親会開催援助	800,000
各系・海外同窓会等活動支援経費	1,000,000
同窓会Web名簿システム経費	840,000
同窓会Web名簿システム登録情報収集経費	1,000,000
同窓会会長賞経費	395,000
「めざましごはん」支援経費	400,000
H29年度支出計	6,265,000
H30年度への繰越金	58,551,182
合計	64,816,182

決算

■ 支出の部

会報No.35経費	290,500	
役員経費	46,530	13,560 11,560 8,000 13,410
庶務経費	40,356	8,856 13,500 15,000 3,000
海外同窓会出張費	0	
卒業記念パーティ援助金	250,000	
学生課外活動援助金	500,000	
同窓生懇親会開催援助	742,000	38,000 100,000 38,000 66,000 24,000 48,000 40,000 48,000 54,000 18,000 24,000 34,000 42,000 168,000
各系・海外同窓会等活動支援経費	138,826	50,976 5,400 10,500 40,000 21,950 10,000
同窓会Web名簿システム経費	810,636	539,136 271,500
同窓会Web名簿システム登録情報収集経費	828,653	
同窓会会長賞経費	394,121	14,121 380,000
「めざましごはん」支援経費	120,000	
H29年度支出計	4,161,622	
H30年度への繰越金(A)	60,654,252	
合計	64,815,874	

※ 2018年2月より役員手当は1,000円/時間とし、学外から来られる同窓会役員には交通費を支払うこととした。

平成30年度 豊橋技術科学大学同窓会 予算(案)

■ 収入

項 目	金 額 (円)	
入会金(5,000円×354人)	1,770,000	
会費(10,000円×354人)	3,540,000	
預金利息	1,000	
H30年度収入計	5,311,000	
H29年度からの繰越金	60,654,252	
合 計	65,965,252	

■ 支出

項 目	金 額 (円)	
同窓会報No.36経費	300,000	
役員経費	130,000	
庶務経費	150,000	
卒業記念パーティ援助金	250,000	
学生活動援助金	500,000	
同窓生懇親会開催援助	1,000,000	
各系・海外同窓会等活動支援経費	1,000,000	
	840,000	
システム管理・運用費		540,000
事務補佐員業務補助費		300,000
同窓会会長賞経費(賞状+副賞)	395,000	
「めざましごはんプレミアムマNDER」支援経費	640,000	
H30年度支出計	5,205,000	
H31年度への繰越金	60,760,252	
合 計	65,965,252	

第67回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

1 日 時 平成30年5月26日(土)・27日(日)
 6月16日(土)・17日(日),23日(土)・24日(日),30日(土)
 7月1日(日),7日(土)・8日(日),14日(土)・15日(日),28日(土)・29日(日)

2 場 所 四ツ池運動公園陸上競技場他17会場

3 幹事大学 浜松医科大学

4 成 績

(男 子)

大学名 競技種目		浜医大		愛教大		三重大		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
1	陸上競技	8	1.0	3	6.0	5	4.0	1	10.0	4	5.0	6	3.0	7	2.0	2	8.0
2	水泳	7	2.0	3	6.0	6	3.0	2	8.0	1	10.0	4	5.0	8	1.0	5	4.0
3	硬式野球	/	/	3	4.5	6	2.0	2	6.0	4	4.5	1	8.0	7	2.0	5	2.0
4	準硬式野球	1	10.0	5	2.5	4	5.5	7	2.5	8	2.5	2	8.0	6	2.5	3	5.5
5	硬式テニス	6	2.5	2	8.0	1	10.0	8	0.0	4	5.0	5	2.5	7	2.5	3	6.0
6	ソフトテニス	8	1.5	2	8.0	4	5.0	6	3.5	3	6.0	5	3.5	7	1.5	1	10.0
7	バスケットボール	/	/	2	5.0	1	6.0	/	/	5	2.0	6	1.0	4	3.0	3	4.0
8	バレーボール	7	2.0	1	10.0	3	6.0	4	5.0	6	3.0	2	8.0	8	1.0	5	4.0
9	卓球	/	/	5	3.0	3	5.0	1	8.0	6	2.0	4	4.0	7	1.0	2	6.0
10	バドミントン	7	2.0	8	1.0	2	8.0	4	5.0	1	10.0	5	4.0	6	3.0	3	6.0
11	サッカー	3	6.0	7	3.0	5	3.0	2	8.0	4	5.0	6	3.0	8	0.0	1	10.0
12	ハンドボール	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
13	柔道	/	/	5	0.0	6	0.0	3	4.0	1	6.0	4	3.0	/	/	2	5.0
14	剣道	8	1.5	3	6.0	4	5.0	2	8.0	1	10.0	5	3.5	7	1.5	6	3.5
15	空手道	2	8.0	6	3.0	5	4.0	1	10.0	4	5.0	8	0.0	7	2.0	3	6.0
16	弓道	4	4.0	/	/	5	2.0	6	2.0	1	8.0	2	6.0	7	2.0	3	5.0
17	体操	/	/	3	0.0	4	0.0	1	6.0	2	5.0	5	0.0	/	/	3	4.0
18	馬術	/	/	4	3.0	3	4.0	2	5.0	1	6.0	6	1.5	/	/	5	1.5
19	アーチェリー	/	/	1	4.0	/	/	3	2.0	4	1.0	/	/	/	/	2	3.0
20	少林寺拳法	/	/	/	/	4	1.0	1	4.0	2	3.0	/	/	/	/	3	2.0
合計得点			40.5		73.0		73.5		97.0		99.0		64.0		25.0		95.5
男子順位			7		5		4		2		1		6		8		3

(女 子)

大学名 競技種目		浜医大		愛教大		三重大		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
1	陸上競技	7	1.5	1	8.0	3	5.0	5	3.0	4	4.0	6	1.5	/	/	2	6.0
2	水泳	4	4.0	1	8.0	5	3.0	2	6.0	3	5.0	7	1.0	/	/	6	2.0
5	硬式テニス	2	5.0	5	2.0	1	6.0	6	0.0	4	3.0	/	/	/	/	3	4.0
6	ソフトテニス	7	0.0	4	4.0	6	2.0	1	8.0	3	5.0	5	3.0	/	/	2	6.0
7	バスケットボール	/	/	3	2.0	4	1.0	/	/	2	3.0	/	/	/	/	1	4.0
8	バレーボール	/	/	1	6.0	6	0.0	4	3.0	3	4.0	5	2.0	/	/	2	5.0
9	卓球	/	/	5	2.0	6	1.0	4	3.0	3	4.0	1	6.0	/	/	2	5.0
10	バドミントン	7	1.0	4	4.0	1	8.0	2	6.0	3	5.0	5	3.0	/	/	6	2.0
12	ハンドボール	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
13	柔道	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
14	剣道	7	0.0	2	6.0	3	5.0	1	8.0	5	2.5	6	2.5	/	/	4	4.0
15	空手道	4	3.0	5	2.0	2	5.0	3	4.0	6	0.0	/	/	/	/	1	6.0
16	弓道	3	4.0	/	/	4	3.0	2	5.0	5	1.5	6	1.5	/	/	1	6.0
17	体操	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
19	アーチェリー	/	/	1	4.0	/	/	3	0.0	2	0.0	/	/	/	/	4	0.0
20	少林寺拳法	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
合計得点			18.5		48.0		39.0		46.0		37.0		20.5		0.0		50.0
女子順位			7		2		4		3		5		6		8		1

【学生活動への援助報告】

現在同窓会では、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、2006年度より大学運営委員会の一つである学生生活委員会と共同で「課外活動活性化経費援助」を行っています。同窓会では会員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、今後も学生活動に対して積極的な援助を続けたいと考えています。

硬式野球部

環境生命工学課程 2年 那須 大翔
顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 澤田 和明
特定准教授 土谷 徹
部員数：学部 11名

昨年に引き続き硬式野球部の活動をご支援いただきまして有難うございます。現在は4年生1人、3年生8人、2年生1人、1年生1人の計11人で活動しています。顧問として電気・電子情報工学系教授の澤田和明部長と特定准教授の土谷徹監督にご支援・ご指導いただいております。練習は主に火曜・木曜の放課後と土曜の午後に行なっています。

私たち硬式野球部は愛知大学野球連盟に加盟しており、春季と秋季の年に2回のリーグ戦があります。私たちは、現在3部に所属しています。今年度の成績は、春季3部Aリーグ戦4位、秋季Bリーグ4位という成績に終わりました。秋季リーグでは、勝てそうな試合もいくつかあり、来年の春季リーグ戦では一勝でも多く勝利できるようにこの冬の練習をがんばりたいと思います。

授業等の関係で、平日の練習は全員が揃うことが難しく、主に個人練習や基礎的な練習を行い、より人数の集まる土曜日に全体練習や実践練習を行なっています。冬場のオフシーズンでは、筋トレや走り込みなど、体づくりを目的とした練習を行います。

今回はバットを10本ほど支援していただきました。

来年度は、冬場にしっかりとトレーニングに励み、新入生と力を合わせ、リーグ戦で満足いく成績が残せるように頑張ります。今後ともご支援の方よろしくをお願いします。



バドミントン部

機械工学課程 3年 石橋 和也
顧問教員：情報・知能工学系 准教授 菅谷 保之
部員数：学部 21名, 大学院 12名

私たちバドミントン部は部員60名で毎週月曜日と金曜日の19時～22時に大学の体育館にて活動しています。練習内容は部員数が多いため主に基礎練習と試合形式の練習を中心にコートを有効に使えるようなメニューを組んでいます。また週2回の練習の他に外部への練習にも積極的に参加しています。バドミントン部には学部1年生から大学院2年生まで在籍しておりますが練習の際には学年関係なく、ときに教えあったり競い合いながらとてもまとまったよい雰囲気の中で部全体でのバドミントン技術の向上を一つの目標として日々の練習に取り組んでいます。その成果もあり今年度の東海地区国立大学体育大会では6位を収め昨年度より1つ順位を上げることができました。目標の優勝にはまだ遠いですがこの調子で来年度も更に順位を上げられるようこれからの練習に真摯に取り組んでいく所存です。

また今年度は東海地区国立大学体育大会の主催校も務め部員一丸となり大会のスムーズな進行を心掛け、また大学の学生課の方や顧問の先生にもご協力いただきながら無事に大会を成功させることができました。関係者の皆様には大変感謝しています。

今後の活動については、年明けの1月に地元豊橋市で開催される豊橋リーグに出場し好成績を収めること、来年の東海地区国立大学体育大会での優勝を目標に日々の練習に精進してまいります。今後ともご支援、ご協力よろしくお願いいたします。



空手道部

環境・生命工学課程 3年 貝沼 健成
顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 滝川 浩史
部員数：学部 11名, 大学院 3名

この度は空手道部へ課外活動活性化経費を援助していただき、誠にありがとうございます。

空手道部は毎週日曜日と木曜日にそれぞれ二時間の練習を行っています。そのうち、日曜日の練習においては外部講師として日本空手協会三河支部代表者の平野茂広先生を招いて指導を受けております。支援金は講師への謝礼金として使わせていただきました。

また、以前より外部講師として平野先生だけではなく本校のOBを招くこともありましたが、支援金の付与により練習に参加していただく機会が多くなり、練習の質を高めることができました。今までの基本に重点をおいた練習はもちろんのこと、型や組手により力を入れた練習を増やすことができました。

今年度は昨年から参加している東国体で入賞するという夢はかないませんでした。しかし支援金の付与により練習の質が向上したので来年度、またそれ以降の東国体をはじめとした各種大会において今までより優れた結果を挙げることができるのではないかと思います。

皆様から支援していただいているということは今後も忘れずに大学院3名学部11名計14名の部員一同、精一杯精進していきたいと思っております。



水泳部

機械工学課程 4年 伊東 佑悟
顧問教員：機械工学系 准教授 竹市 嘉記
部員数：学部 23名, 大学院 7名, 留学生 12名

昨年度に引き続き水泳部の活動にご支援頂きまして、誠にありがとうございます。部員一同心よりお礼申し上げます。援助金は大会参加費用や冬季練習に使用いたしました。

今年度の水泳部は留学生が多く所属しています。そのため、水泳の道具を所持していない部員も多く、スイムキャップの支援を頂いたお蔭で、初心者や留学生の水泳を始めるハードルを下げることができ部員の充実につながりました。

大会では昨年出場した東国体、インカレ、秋季記録会に加えて今シーズン初めて出場する金沢オープンに出場しました。金沢オープンとは全国で数少ない世界公認プールで行われる大会になります。石川県内の高校生や高専生、北海道から沖縄まで全国の大学から参加者が集まります。この大会に出場することは大学広報としても非常に意味のある大会であり、シーズン入りして初めての大会になるため、水泳部のモチベーション向上のためにも大切な大会でした。大会の結果は、昨年度の冬季練習の充実により部員の多くがベストタイムを更新する良い大会になりました。

昨年度より多くの大会に出場し、ベストタイムを更新できたのは、先輩方からの支援によるものです。重ねて御礼申し上げます。

昨年度に引き続き冬季の水中練習を行い、来シーズンでは更なる飛躍を目標に日々精進していく所存です。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



弓道部

環境・生命工学課程 3年 金子 光瑠

顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 澤田 和明

部員数：学部 32名, 大学院 7名

この度は、私達弓道部に活動活性化経費のご援助をして頂き誠にありがとうございます。経費は道場使用料および弓具購入に使用させて頂きました。部員一同心よりお礼申し上げます。

今年度の弓道部も澤田和明教授に顧問をしていただいております。また、弓道場は学校外の野依八幡神社弓道場を借りて使用しています。

今年度の豊橋技術科学大学弓道部は正射必中という言葉のもと、「中てる射」ではなく「中たる射」を目指して日々練習を行っています。豊橋技術科学大学弓道部は学生同士で切磋琢磨しながら練習するのが基本的な練習方法です。同年代でありながら教える、教えられるという関係は簡単ではありませんが、どちら側においても弓道を行う上では必ず必要なことです。

今年度は豊橋公園弓道場で社会人の高段者の方達と週一回練習しています。高段者の方達から教えて頂ける弓道はとても身になり、弓道経験者である学生に対してもとても貴重な時間であり、確実に上達する時間とも言えます。大会や段位取得に向けたさらなる練習としてこれからも続けていきます。

今年度はありがたいことに2018年末に明治神宮での射会に参加させて頂けることになりました。これは大変名誉なこと、とても嬉しいことです。これも今まで豊橋技術科学大学弓道部を支えてくださった。たくさんの人のお陰です。本当にありがとうございます。

これからも練習を大切にしながら弓道を精進して参りますので、今度ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



吹奏楽団

建築・都市システム学課程 3年 西村 隆登

顧問教員：総合教育院 教授 岡田 浩

部員数：学部 43名, 大学院 13名

いつも吹奏楽団のご支援、誠にありがとうございます。団員一同心よりお礼申し上げます。私どもは課外活動活性化経費にて頂いた援助金で、ソプラノサクソの方を購入させて頂きました。

創部から40年近くになる最近では、私どもが使う楽器の中には老朽化が進み、更新が必要なものも出てきております。また、今年度吹奏楽団では25人の新入生を迎え総勢56名で活動しているため、現在団で所有している楽器だけでは、団員分の演奏可能な楽器を十分に賄うことはできない現状となっています。そのため、高価な楽器の修理・購入を進める上で課外活動活性化経費は大変に有難い制度であり、団員一同とても感謝しております。

今年度は「たましい」を団目標として、豊橋市内の小中学校や福祉村、刑務支所での依頼演奏などを行い、地域の方々に音楽を楽しんで頂けるように日々練習に励んでおります。また、今年度から団員の演奏力強化のため、アンサンブル演奏会を月に一回程度行うなどの新しい試みも多数行っております。

ご支援頂いたソプラノサクソは、毎年演奏させて頂いている卒業式、入学式での依頼演奏や訪問演奏時のアンサンブル演奏等多数の場所で使わせていただく予定です。こういった活動をさせて頂けるのも学校関係者様含め、多くの方々に支えられているからということをお忘れず、少しでも大学や地域の方々に貢献出来るように団員一同精一杯活動してまいります。今後共ご支援よろしくお願い致します。



JAZZ研究会

情報・知能工学課程 3年 内山 慎太郎
顧問教員: 情報・知能工学系 教授 三浦 純
部員数: 学部 27名, 大学院 10名

昨年度に引き続き、今年度も課外活動活性化経費によるご支援を賜りました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

本サークルは、ジャズをはじめとする音楽の演奏や鑑賞を通じて、豊かな感性を育むサークルです。新入生歓迎会や技科大祭、部内ライブでの学内演奏を今年度は主に実施しておりました。特に今年度は技科大祭のオープニングセレモニーで演奏する機会をいただき、大変光栄に存じます。また新入生にも気軽に、かつ楽しんで演奏に参加していただけるよう、部内での楽器演奏講座、音楽理論講座の他、セッション会なども適宜開催しております。

今般ご支援いただいた経費では、新たにテナーサクスを一台購入させていただきました。サクスと言えばアルトサクスがメジャーなイメージですが、テナーサクスにはアルトサクスにはない音の重厚感と、安定感を感じさせる音域が特徴で、昨年度のウッドベースに引き続きジャズには欠かせない楽器の一つです。

このテナーサクスは購入してから、数々のイベントにて演奏させていただいております。その中でも、特に技科大祭出展のジャズ喫茶では、ご来場者のみなさまにご好評をいただきました。新入部員にも、入部を機にテナーサクスを始める部員がいるなど、ご支援の結果、ますますサークル活動が活発化していく様子を見せています。

今後とも部員一同、より良い演奏によってイベントにご来場いただいたすべての皆様にご満足いただけるよう、努力させていただきますので、今後ともご支援いただければ幸いに存じます。



アカペラサークルJ.U.S.T

電気・電子情報工学課程 3年 小柴 大雅
顧問教員: 国際交流センター 准教授 吉村 弓子
部員数: 学部 49名, 大学院 33名

この度は、私たちアカペラサークル J.U.S.T. を御支援頂き、誠にありがとうございます。サークル員一同を代表して心より御礼申し上げます。

アカペラサークル J.U.S.T. は、本学の技科大祭に始まり、本サークル主催・他大学との共催のアカペラライブ、他大学のアカペラライブなどでアカペラライブパフォーマンスを行っております。活動面に関しましては、週に1度の全体発声練習と全体曲練習に加え、それぞれのバンドごとに日々練習に励んでおります。他大学のサークルに比べ、学部生から大学院生まで多くのサークル員が所属しているため、同年代のみならず、先輩・後輩間での交流も活発であり、練習の際にはアドバイスが飛び交う活気あるサークルです。今年度は20人程のサークル員を新たにに加え、より一層活動が活発となっております。今年は豊橋駅前でのライブや、静岡大学・愛知教育大学・本学との3大学共催ライブ、J.U.S.T. を主催とする技科大祭ライブを開催しました。

今回、御支援を頂きました課外活動活性化経費は、ライブにおける演出面での向上を図るために、LEDライト・スポットライト・照明コントローラーといった照明機材の購入に充てさせていただきました。これら機材を初めて導入した技科大祭ライブでは、演者を始め、会場に来て頂いた多くの観客の方から好評を得ることが出来ました。今後は、J.U.S.T. 運営に照明班を新たに設置し、照明に関する講習や学生間での勉強会を通して、更なる演出面での向上を図っていきます。

多くの方々の御支援によって、活動できていることを忘れず、皆様のご期待に添うべくこれからも精進して参りますので、今後とも御支援のほどよろしくお願い申し上げます。また、御時間のある際には、ぜひアカペラライブへお越しください。お待ちしております。



ロボコン同好会

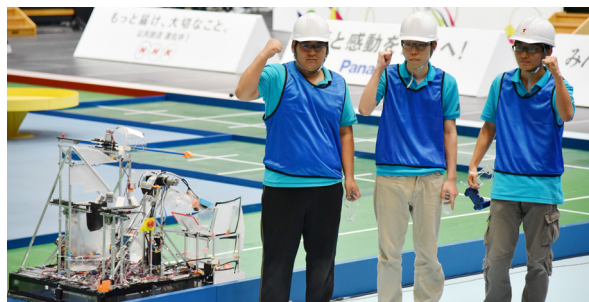
機械工学課程 3年 島崎 稔
顧問教員：機械工学系 准教授 佐野 滋則
部員数：学部 30名, 大学院 14名

この度は我々ロボコン同好会に、課外活動活性化経費よりご支援いただき誠にありがとうございました。部員一同心よりお礼申し上げます。

弊サークルは「ABU アジア・太平洋ロボットコンテスト」優勝を目指して日々活動しています。今年度の「NHK 学生ロボコン 2018」では決勝で東京大学に敗れ、準優勝でした。また、日本のロボコンを強くすることを目的とした「東海地区交流ロボコン」に弊サークルから3チームが出場し、優勝、準優勝、第三位という結果を残すことができました。大会に出場するだけでなく、他大のロボコンサークルと互いの技術力の向上を目的とした交流会も行っています。また、地域のイベントにも参加し、子供たちにロボットの操縦体験をしてもらうことで、ものづくりの楽しさを伝えています。

今年度は課外活動活性化経費で折り曲げ機、手回しタッパー、皿ばねナット、デジマチックインジケータ、マグネチックスタンド、作業台、3Dプリンター、ドライバドリルを支援していただきました。現在、これらの物品を活用し、「学生ロボコン 2019」に向けてロボット的设计製作を行っています。

ご支援を糧に、部員一同精一杯尽力して参ります。今後のロボコン同好会の活躍にご期待ください。



自動車研究部

機械工学専攻 修士1年 望月 雄斗
顧問教員：機械工学系 教授 柳田 秀昭
部員数：学部 27名, 大学院 11名

この度は私たち自動車研究部へご支援をいただき、誠にありがとうございます。自動車研究部部員一同、心より御礼申し上げます。

弊部は毎年9月に開催される全日本学生フォーミュラ大会に出場するためにボディからシートに至るまで学生が自ら設計製作し、1年間で1台、車輛を作り続けています。2005年にチームを結束し、当時日本チーム初のCFRPモノコックボディの車輛で参戦してから今年で13年目の活動になります。13年目となる今年はさらなる飛躍のため、以前まで使用してきた600ccバイクのエンジンに代わりモーターを搭載した電気自動車で初参戦しました。

今年度の支援金は、電気自動車での大会初参戦にあたって必要となるシステム開発をプロのエンジニアからサポートしていただくための謝礼金とレース用タイヤの購入に充てさせていただきました。

2018年度大会では、電気自動車での初参戦という困難な状況にもかかわらず110チーム中EVクラス3位、総合25位という成績とともに日本自動車工業会会長賞、最軽量化賞、省エネ賞1位、ルーキー賞、グッドアキウムレータコンテナデザイン賞2位という数々の特別賞を獲得することができました。

さらなる飛躍を目標に、皆様からのご支援に感謝し、たゆまぬ努力を続けて活動していきたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。



おちゃのかい

機械工学課程 3年 横山 遼河
顧問教員: 機械工学系 教授 中村 祐二
部員数: 学部 16名, 大学院 9名

この度は私どもおちゃのかいをご支援いただき、誠にありがとうございます。

現在、おちゃのかいは毎週火曜日と金曜日に学外から裏千家茶道の先生お二人にお越しいただき、日々稽古に励んでおります。今回の援助金は先生方への謝礼金やお稽古で使うお道具代として充てさせていただきました。おかげさまで部員一同楽しく茶道を学ぶことができております。

おちゃのかいでは毎年9月に豊橋公園三の丸会館にて、「ふつうの茶会」という茶会を催しております。この茶会には一般の方ももちろん、おちゃのかいのOBや他大学の茶道部など、多くの方にお客様としてお越しいただいております。おちゃのかいにとって1年で最も大きな行事のため、部員一丸となり、この行事の大成を目標として日々の稽古に熱心に取り組んでおります。

また、10月初めの技科大祭では、「技科大庵」と称し、学内や一般の方にお抹茶とお菓子をお出ししております。台風の影響が心配される中、今年も多くのお客様にお越しいただき、想定よりも早く、用意していたお菓子がなくなるほどの盛況ぶりでした。この行事では、茶道を始めて1年目の部員がお点前を初披露する場でもあり、私を含め、皆とても緊張しておりましたが、日々の稽古の成果を発揮できた良いお点前ができたと感じております。

最後になりますが、これからもおちゃのかいの伝統を重んじ、多くの方に茶道の世界を楽しんでいただけるよう部員一同日々の稽古に励んでいきたいと考えております。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。



模型部

情報・知能工学課程 4年 奥田 崇礼
顧問教員: 情報・知能工学系 准教授 菅谷 保之
部員数: 学部 5名, 大学院 10名

この度は模型部の活動に対してご支援をしていただき、誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。本模型部はおかげさまで2010年の設立から今年で9年目を迎えることができ、来年でいよいよ設立10年目を迎えます。今年度も新入部員に恵まれ、週2回の活動を主に新入生歓迎会や技科大祭での展示、部内コンペティションなどで部員同士、技術の向上に励んでいます。また、ブログやTwitterでの情報発信などを通して外部との交流を行い、模型文化の普及に励んでいます。今年度は初めて本格的に模型を作るという新入部員が多く、これからの彼らの成長が楽しみであります。

今回のご支援により購入させて頂いたプラモデルは、技科大祭で開催した小学生向けの模型製作体験教室にて使用させていただきました。模型部発足直後から毎年開催しているこの体験教室ですが、今年は例年以上に大盛況で、用意した全てのプラモデルを子供たちに作ってもらうことができました。また、今年はミニ四駆とそれを走らせるためのコースも購入させて頂きました。そのため、子供たちに自分が作ったものが動く楽しさ、という例年の模型体験教室にはない「ものづくりの楽しさ」を体験してもらうことが出来ました。これからも模型教室を通して子供たちにプラモデルの楽しさを知ってもらうと同時に、「ものづくりの楽しさ」についても伝えていければと思います。

今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



技科大祭実行委員会

建築都市システム学課程 2年 三井 寛子

顧問教員:総合教育院 教授 池松 峰男

部員数:学部 31名

この度は、技科大祭実行委員会に課外活動活性化経費のご支援をいただき、誠にありがとうございました。同窓会の皆様にご支援いただいた活性化費用は、例年同様、技科大祭で使用されるステージのバックパネル製作材料の購入資金として活用させていただきました。このバックパネルは、下の写真のように技科大祭で使用するステージに飾られるもので、全学生に対しデザインの募集を行い、選ばれたデザインをもとに実行委員会のメンバーが製作します。バックパネルのデザインは、その年の技科大祭の方向性を表し、「顔」となる重要なものです。

第41回技科大祭は「翔けろ」というテーマで、昨年度の「外へ出る!」をテーマに、たくさんのものと出会えるような運営に引き続き、今年はさらに自らの翼で飛び上がっていけるように、という願いが込められています。バックパネルはテーマカラーの赤をメインに、羽を出して外へ出るという意味を込めて、翔けるというイメージの羽と上へ向かう矢印で高く飛び立つ様子を描きました。今年是他大学のダンスパフォーマンスや、お笑い芸人によるライブ、声優のトークショー、留学生による模擬店など、様々な人、文化と交流し合える技科大祭を目指しました。おかげさまで、今年は二日間合わせて2200人以上のおお客様にご来場いただきました。

同窓会の皆様のご支援、ご協力のもと、今年度も無事技科大祭を執り行えましたことを、心より感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。



留学生スポーツクラブ

機械工学課程 3年 VO GIA BAO

顧問教員:機械工学系 准教授 竹市 嘉紀

部員数:学部 18名, 大学院 4名

この度は留学生スポーツクラブへ課外活動活性化経費を援助していただき、誠にありがとうございます。

留学生スポーツクラブは「国から離れている技科大に在学中の留学生の皆さんを集めて、スポーツや課外活動各種(BBQ、運動会、紅葉会など)を通して、一週間の勉強、研究から解放され、一緒に体を動かせ、一緒に笑え」という方針で設立されました。年々に渡って、ベトナム、マレーシア、インドネシア、メキシコなどの留学生たちの心安いスポーツ交流場になりました。

しかし、上記の方針で実施するために、様々な物品やスポーツ用具が必要となります。設立から8年間の活躍に渡って、替える必要な物品および新しいスポーツ用具の購入必要が生じたため、平成30年度課外活動活性化経費をはじめ申請することになりましたが、採用を決定してくださったことは、大変大きな支援となりました。

新しいスポーツ用具を留学生スポーツクラブ倉庫にきちんと保管し、練習に使用します。国際交流活動をさらに深め、設立から述べた方針の通りに、もっともっとイベントや大会を行い、留学生たちの精神生活を充実できるように支えていきます。

これからも一つ一つの練習を大切にしながら精進して参りますので、今後ともご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。また、お時間があれば、ぜひ留学生スポーツクラブへお越しいただき、一緒にスポーツを交流しましょう。



豊橋日曜学校

情報・機械工学課程 3年 中北 幸太

顧問教員：建築・都市システム学系 准教授 渋澤 博幸

部員数：学部 8名, 大学院 5名

この度は、私たち豊橋日曜学校にご支援いただき、誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。

私たち豊橋日曜学校は月に一度、日曜日に豊橋市内に在住の知的障がいを持つ子どもたちとふれあうことを目的としたボランティアサークルです。子どもたちに普段の生活ではできないようなことを体験してもらえよう、各月ごとにテーマを決め、様々なレクリエーションや工作、キャンプや運動会などを企画しています。安全面などを配慮し下見を何度もしたり、カリキュラムが危険でないことを確認するなど子どもたちに楽しんでもらえるように時間をかけて準備をしています。当日の内容の企画・準備等は時間がかかる作業ではありますが、当日中に子どもたちの元気な笑顔が見られるようにと思い励んでいます。また、子どもの親御さんとも意見を交換したりするなど子どもたちにとってより良い当日になるように日々活動しています。今年は新たに15人の学生が参加してくれ、すでに新入学生の企画したレクリエーションも行っています。

今回ご支援いただいた課外活動活性化経費は、このような毎月の活動当日やその準備で使用する資料・物品作成用のプリンタのインク、その他備品・消耗品の費用に充てさせていただきました。

今回のご支援、そして多くの方々の支えを忘れず、皆様のご期待に添うべく精一杯活動してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



【同窓生への支援事業報告】

本学同窓生が参加する懇親会、パーティー等の交流活動を支援しています。同窓会正会員が10名以上参加したイベントに対して、一人2,000円を上限に助成しております。平成30年度は11団体（平成30年11月現在）の助成を行いました。なお、同窓生支援事業の詳細・申請方法は同窓会ホームページ（<http://www.alumnitut.jp/>）に掲載されていますので、是非ご覧下さい。

豊橋技術科学大学バレーボール部OB会

平成19年度 修了 秋田 一平

開催概要

実施日 | 平成29年10月28日

開催場所 | だいたいや浜道店

出席者数 | 10名(内本学卒業・修了生10名)

2000年～2006年くらいまでにバレー部に在籍していた者で約10年ぶりに豊橋に集まって、二日間にわたり懇親会、カラオケ、バレーボール等で交流しました。台風22

号が近づいておりあいにくの天気ではありましたが、遠方は九州・関東から総勢11人が集まり、久しぶりのメンバーで楽しい時間を共有することが出来ました。次回は2、3年後にまた豊橋に集まって皆で楽しめればと思っていますので、今回残念ながら来られなかった方は是非とも参加してもらえればと思います。



石田先生の還暦を祝う会

平成29年度 修了 畑 良知

開催概要

実施日 | 平成29年12月16日

開催場所 | ホテルロワジール豊橋

出席者数 | 32名(内本学卒業・修了生17名)



本年は、石田好輝先生が豊橋に赴任されてから16年がたち、多くの教え子を輩出した先生もこの度還暦を迎えることとなりました。それにあたりまして、卒業生・在学生である参加者一同より、これまでの感謝とお祝いの気持ちを伝えるために、ささやかながらではありますが先生の還暦を祝う会を企画いたしました。本会では、食事と歓談だけでなく、各自にスライドを使ったプレゼンやスピーチなどで短時間の近況報告などを行っていただきました。先生と参加者、また参加者同士での交流も深めることができ、感謝とお祝いの気持ちを伝えるだけでなく、お互いに有意義な時間を過ごすことができました。

豊橋技術科学大学関西支部同窓会

平成 20年度 修了 奥村 和皓

開催概要

実施日 | 平成29年11月26日

開催場所 | 宴会場 味園

出席者数 | 15名(内本学卒業・修了生12名)

去る11月26日に建設系の関西支部同窓会を開催しました。場所は昔ながらの大阪を感じられるなんば千日前の老舗宴会場 味園。当日は12名の卒業生と3名の元教官が

集まり、美味しい食事を頂きながら一人一人に近況を語って頂きました。ご家族や仕事場でのお話に始まり、皆それぞれに身近に感じることを、ユーモアを交えてお話し頂きました。次回同窓会の幹事は、若林さん(4期)で行います。場所は未定ですが12月1日に行く予定です。連絡先がわからずご案内が難しい状況ですが、関西在住の方にかかわらず、皆さんのご出席をお待ちしております。



増山繁教授 退職記念パーティー

平成 20年度 修了 中村 純哉

開催概要

実施日 | 平成30年3月9日

開催場所 | ホテルアークリッシュ豊橋

出席者数 | 34名(内本学卒業・修了生21名)

本パーティーは、平成29年度末に定年を迎えられる知能・情報工学系増山繁教授の退職を祝賀する目的で、平成30年3月9日に開催されました。増山研究室で博士号を取得した卒業生を中心に、豊橋技術科学大学の教員や

在学生など合計34名が参加しました。パーティーは長岡技術科学大学の山本先生の乾杯挨拶で幕が開き、その後、豊橋技術科学大学着任後29年間に渡る増山先生のご活躍について、研究室OBである名古屋学院大学 程先生・成蹊大学 酒井先生や、旧7系設立時からの同僚である知能・情報工学系 高橋先生からスピーチを頂戴しました。増山先生に記念品と花束を贈呈し、最後は徳島大学 中山先生による三本締めでパーティーは幕を閉じました。



寺嶋一彦先生 退職記念祝賀会

平成 22年度 修了 田崎 良佑

開催概要

実施日 | 平成30年 3月25日

開催場所 | ホテルアソシア豊橋

出席者数 | 191 名(内本学卒業・修了生85名)

システム制御研究室(旧 工程制御研究室)では、同窓会を3年に一度実施しています。2018年の今回は、寺嶋一彦先生の御退職にあわせての記念祝賀会として同窓生のほかにも、技科大教職員・企業関係・学会関係者・海外の研究者の方々にもお集まりいただき、総勢 200 名程度の盛大なパーティーとなりました。うち技科大卒業生は約 90 名で、現役学生参加者 30 名を含めると研究室同窓会で 120 名が集結したことになります。

会のはじめに、寺嶋先生より 36 年に渡る技科大でのご研究活動を凝縮した特別講演をしていただきました。また、次の方々よりお祝いのご挨拶をいただきました：三好孝典(研究室准教授)、野村宏之先生(研究室元教授)、大貝彰先生(本学)、山本清二様(アイシン精機)、Oliver

Sawodny 先生(Stuttgart 大学)、伊藤一寿様(1980 年度旧 2 系卒・研究室第一期生)、山本清二先生(浜松医科大学)、木村博彦様(株木村铸造所)、武藤昌三(シンフォニアテクノロジー(株))、川合悦蔵様(新東工業(株))、寺嶋久代様(寺嶋先生令夫人)、田崎良佑(研究室助教)。

次回の研究室同窓会は 2021 年の秋ごろに実施を予定しております。開催が近づきましたらご案内申し上げますので、みなさまのご参会をよろしく願いたします。



材料機能制御研究室 同窓会

平成 26年度 修了 足立 望

開催概要

実施日 | 平成30年 4月7日

開催場所 | 豊橋技術科学大学 サカキパーク

出席者数 | 44名(内本学卒業・修了生18名)

機械工学系 材料機能制御研究室では、毎年春に同窓会を開催しております。毎年 20 名ほどの卒業生・修了生に参加して頂き、交流が続いております。今年度は 4 月 7

日(土)に開催し、研究室の思い出話に花を咲かせました。研究室に新しく配属となった学部 4 年生・修士 1 年生を始め、在校生にとって、先輩と交流を深める良い機会となっております。お忙しい中ご参加頂きました皆様に、感謝を申し上げます。また、次回は平成 31 年春に開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております。



デンソー雲雀会 (技科大学出身者のOB会)

平成 5 年度 修了 今田 真嗣

開催概要

実施日 | 平成30年 6月28日

開催場所 | D-square 4F シンフォニー

出席者数 | 53名(内本学卒業・修了生53名)

本会はデンソーに入社した同窓生の懇親を目的に 6月28日に開催。大学1期生で現同窓会会長の古野さん(デンソーグループ会社専務)呼びかけで約10年振りに再開。53名(在

籍者の約4割)が参加。古野さんの乾杯挨拶で始まり、約2時間の歓談。最後は大学1期生の方々よる三本締めで会を終えました。同じ会社内とはいえ所帯が大きい、個人情報開示の難しさなどの理由から、近年の交流が滞っていたのですが、久々の開催に会場内からは、「あなたも技科大でしたか」「いい情報ありがとう」「次は〇〇で連携しましょう」など、たいへん有意義な交流会となりました。



還暦同窓会

1983年度 修了 中野 裕美

開催概要

実施日 | 平成30年 8月25日

開催場所 | 梨杏(アソシアホテル内)

出席者数 | 19名(内本学卒業・修了生16名)

物質工学2期生が今年度で還暦を迎えます。そこで、還暦を記念して、卒業後初の同窓会を豊橋で2018年8

月25日に開催しました。19名(恩師3名を含む)の参加者により、一次会から二次会まで、大いに盛り上がりました。全国でご活躍中のため、なかなか集まるのがむずかしいと思いますが、次回は、5年後の65歳をめでに豊橋で開催します。最新の情報を同窓会までお知らせください。



平成30年度同窓会定例総会出席者懇親会

平成 13年度 修了 稲田 亮史

開催概要

実施日 | 平成30年 8月25日

開催場所 | 居酒屋ダイニングてんぐ豊橋駅前店

出席者数 | 14名(内本学卒業・修了生14名)

平成 30 年 8 月 25 日 (土) に開催した同窓会定例総会開催後に懇親会を開催し、14 人の同窓生有志の方々に参加いただきました。開学初期から 4 年前に本学を終了した

幅広い世代の OB・OG に参加いただき、短い時間でしたが非常に盛り上がった会となりました。当懇親会は、毎年
の定例総会後の恒例行事として 4 年前から継続開催しており、年々少しずつ参加者数も増加しています。次年度も開催する予定です。ご都合のつく同窓生の皆様は、気軽
に奮ってご参加ください。



電気・電子情報工学系 第一期生 2018同窓会

1981年度 修了 高嶋 孝明

開催概要

実施日 | 平成30年 9月15日

開催場所 | 和のレポート はづ

出席者数 | 23名(内本学卒業・修了生15名)

開催趣旨

昨年 9 月に開催した電気・電子情報系同窓会 (三志会) 一期生還暦同窓会にて、今後毎年同窓会を開催することを決定し、本年度の同窓会を卒業生と恩師で集まって開催した。

■ 幹事:

名倉道長 (デンソー)・中川重康 (舞鶴高専)

事務局: 高嶋孝明 (豊橋技術科学大学)

■ ネットワーク強化

昨年作成したメールアドレスでの同期生の連絡網を活用して同窓会参加者を募るとともに、連絡先および昨年作成した三志会一期生および教員名簿の情報を最新にアップデートして配布した。同窓会の写真は Google Photo を活用して、共有した。2019 年の同窓会幹事を決め、今度は関東地区で開催することとした。



電気・電子情報系2期生還暦同窓会

昭和 58年度 修了 田中 三郎

開催概要

実施日 | 平成30年9月1日

開催場所 | 梨杏(アソシアホテル内)

出席者数 | 25名(内本学卒業・修了生19名)

9月1日(土)にホテルアソシア豊橋5F 中国料理 梨杏(りんか)で電気・電子情報系二期生 還暦同窓会を開催しました。準備を始めた5月の段階では連絡先不明の同窓生が多く、10名集まれば良ししようということで始めました。連絡のついた方々には個別のネットワークで連絡を取ってもらって輪を広げました。退職された恩師から個別に年賀状の住所を頼りに連絡してもらって参加できた同窓生もいます。最終的には19名の同窓生と電気・電子系から小崎先生、太田先生、石田先生、水野先生の4名、情報系からは田所先生、辰巳先生の2名の恩師の先生方が出席しました。同窓生の皆様には遠くは博多、熊本、青森からも出席頂きました。

事前に同窓生や恩師の先生から当時の懐かしい写真を提供いただき、当日、会場でスライドショーを実施しました。40年前の若きころの写真が投影される度に一同、前のめりになり、スクリーンで解説する人も出てきて大いに盛り上がりました。

先生方には1人ずつ当時は振り返り、思い出話をして頂き、花束贈呈の後、個別写真や集合写真撮影を行って終了しました。土曜日の開催でしたので、多くの参加者は2次会や3次会に行ったり、先生のお家にお邪魔したりと、気持ちは学生に戻って夜中まで盛り上がりました。

準備は少し大変でしたが、同窓生のネットワークの再構築ができ、また、多くの同窓生によるこんでいただき、同窓会を開催して良かったとの感想です。



竹下 松本 佐々木 藤 菊池 高田 大久保 野口 森山 河田 石田 小倉 窪田 寄林 河原畑 田中 三
小林 津曲
森下 小笠原 辰巳先生 太田先生 小崎先生 田所先生 水野先生 石田先生
電気・電子情報系 二期生 還暦同窓会 於 ホテルアソシア豊橋 梨杏

清水建設同窓会 (関東支部)

平成 3年度 修了 泉 洋一郎

開催概要

実施日 | 平成30年10月31日

開催場所 | 中国名菜処 悟空

出席者数 | 11名(内本学卒業・修了生11名)

清水建設の関東近辺で働いている同窓生の懇親会。前回8名、今回11名参加実績で、全国に合計32名の同窓生が清水建設に勤務している状況。今後、全国の支店勤務の同窓生にも声をかけ新入生などの懇親や情報交換をしてゆきたいと思っております。



第9回雲雀会（トヨタ自動車勤務 同窓会）

平成 28年度 修了 戸谷 光尋

開催概要

実施日 | 平成30年10月5日

開催場所 | GoldenBears

出席者数 | 44名(内本学卒業・修了生44名)

トヨタ自動車株式会社に勤務する卒業生の会合で、2010年より今回で9回目の開催です。本年は44名の参加申し込みがあり、新入社員から1982年卒業の大先輩まで幅広い年次の方にご参加いただきました。

今回は、ホテル開催からバルに会場を移し、より楽しくカジュアルな会を目指しました。昔の写真のスライドショーでは懐かしさからの感嘆や、上の方から新しい方に当時を教えてあげる場面もみられました。また、新人の余興では精一杯盛り上げていただき、一体感を高める事ができました。普段業務では関わりの薄い他部署の先輩方と縁を深める良い場所となりました。来年も開催する予定ですので、より多くの方にご参加いただけることを期待しております。



豊橋日曜学校45周年記念会

2011年度 修了 松尾 幸二郎

開催概要

実施日 | 平成30年9月16日

開催場所 | 愛知大学豊橋キャンパス食堂

出席者数 | 133名(内本学卒業・修了生18名)

本学のサークルの1つである豊橋日曜学校は、今年度で45周年を迎えました。これを記念して、今年度の9月16日（日）に愛知大学豊橋キャンパスにて45周年記念大懇親会を開催しました。

参加者は、豊橋技科大卒業生の18名に加え、サークルの現役技科大生、共同で活動している愛知大学などの他大学や他学校の現役学生や卒業生、障害を持ったなかまやそのご家族を合わせて、総勢133名となりました。お子さんを連れて来られた卒業生などもおり、久しぶりの再会を大いに楽しんでいました。

次回は47周年記念行事の開催を予定しています。サークル同窓生の皆様のご参加をお待ちしております。



第9期生産システム工学系クラス会

平成 元年度 修了 兼重 明宏

開催概要

実施日 | 平成30年11月10日

開催場所 | ホテルシーパレスリゾート

出席者数 | 25名(内本学卒業・修了生24名)

第9期生産システム工学系(平成2年3月修了)クラス会を、平成30年11月10日(土)豊橋市のホテルシーパレスリゾートで開催しました。クラス担任の小野木克明先生にもご出席頂き、旧交を深める会となりました。これまで一部卒業生でミニクラス会を不定期に開催していたものを、

卒業、修了後30年余り経過したタイミングということで、各配属研究室の連絡担当者を中心に案内を行い、クラスの半数24名が集まり開催することができました。卒業・修了後、仕事に家庭にと忙しい日々を送っていますが、夜遅くまで、学生時代のこと、仕事や家庭のことなど語り明かしました。今回、海外出張、赴任等、仕事や様々なことで出席できなかった人もいます。次回は退職時の開催を考えていますので、一人でも多く集まればと思います。



海岸研OB会

平成 26年度 修了 柿木 利輝

開催概要

実施日 | 平成30年10月6日

開催場所 | 新和食屋 青木商店

出席者数 | 36名(内本学卒業・修了生22名)

本懇親会は、海岸工学研究室が毎年豊橋で開催している同窓会です。今年も青木先生をはじめ、加藤先生、岡辺先生にもご参加いただき、在学時代の懐かしい思い出話に花が咲き、非常に楽しい時間となりました。

本会では幅広い年代の卒業生の方々および現役の学生にもご参加いただいておりますので、学年の壁を超えて縦に繋がる貴重な機会です。この繋がりは仕事・研究等の様々な局面で活かしていますので、今後とも継続的に開催したいと考えています。

来年は青木先生が還暦を迎えられる年であり、海岸研OB会でも盛大にお祝いしたいと考えております。海岸工学研究室の同窓生の皆様のご参加をお待ちしております。





GO TO THE FUTURE

豊橋技術科学大学

